

水泳

水

65

日本水上競技聯盟機関雜誌

# 昭和十四年競技日程

(日本水上競技聯盟)

自五月廿日至六月十八日	……每土、日曜、關東學生選手權水球リーグ戦	……(神宮)
六月四日	……早慶對抗水上競技大會	……(神宮)
六月十一日	……日、立、明三大學對抗水上競技大會	……(神宮)
六月十八日	……西部學生水上競技大會	……(大濠)
六月廿五日	……早關對抗水上競技大會	……(甲子園)
七月廿五、廿六日	……全國高專選手權水上競技大會	……(神宮)
七月廿九、卅日	……東部中等學校水上競技大會	……(神宮)
七月廿九、卅日	……中部中等學校水上競技大會	……(甲子園)
七月廿九、卅日	……西部中等學校水上競技大會	……(大濠)
七月卅日	……第二回團體長距離競泳全國大會	……(熱海初島)
八月四日	……關東選手權水上競技大會	……(神宮)
八月五、六日	……日本中等學校水上競技大會	……(甲子園)
八月六日	……國民皆泳全國學童水泳大會	……
八月六日	……東西學生對抗水球水上競技大會	……(甲子園)
八月五、六日	……日本中等學校選手權水球競技大會	……( " )
八月八日	……關東女子中等學校水上競技大會	……(神宮)
八月十二、十三、十四日	……日本選手權水上競技大會	……(神宮)
八月廿六、廿七日	……日本女子中等學校水上競技大會	……(甲子園)
九月八、九、十日	……關東學生選手權水上競技大會	……(神宮)
九月九、十日	……東海、關西、學生水上競技大會	……(神宮)
九月上旬	……東京小學校水上競技大會	……(神宮)
九月十五、十六、十七日	……日本學生選手權水上競技大會	……(神宮)
九月廿三、廿四又ハ廿二、廿三、廿四日	……明治神宮體育大會水上競技大會	……(神宮)

尙神宮競技會中に下記競技會をも含めて行ふ豫定なり。

- 第三回全國實業團選手權水上競技大會
- 全國小學校教員水上競技大會
- 青年團府縣對抗水上競技大會
- 海軍三鎮守府對抗水上競技大會

九月廿九、卅日、十月一日	……關東學生水球トーナメント戦	……(神宮)
十一月二日	……明治神宮體育大會室內水上競技大會	……(未定)

# 水 泳

昭和十四年・第六十五號  
五

## 目 次

安養寺顯三の死を惜む	白山源三郎 (3)
早慶戦を顧みて	齋藤巍洋 (7)
春季水球リーグ早・立戦	(2)
男子競泳世界最高記録	(4)
女子競泳世界最高記録	(5)
競泳合同練習記録會報告	(6)
第十三回早慶水上競技觀戰記 (東京帝國大學水泳部)	(8)
早慶飛込競技觀戰記	原秀夫 (12)
水球用ボールに就て	笹島彦次郎 (34)
海外情報一束	小山賢之助 (35)
ソ聯水泳競技會の記録	(37)
昭和十四年度の卒業生と新入生	(37)
水上競技聯盟役員出征者通信 (其五)	(38)
水上競技聯盟日誌	(39)
水上競技聯盟議事録及後記	(39)



## 第一回團體長距離競泳 全國大會醫事班報告

齋藤亨 (16)

### (内容目次)

第一	總說	(15)
第二	競技前健康檢診	(15)
第三	救護準備	(16)
第四	陸上救護所に於ける狀況	(18)
第五	眼科領域に於ける所見	(20)
第六	救護船に於ける救護狀況	(23)
第七	出場者の身體檢査成績	(25)
第八	結辭	(27)



## ☆ シーズン開く ☆

春季學生水球リーグ戦第二日（5月22日）  
立教對早稲田戦寫眞は上より12番立教本田、  
10番早稲田壺田、及ゴールキーパー山田

[目次に戻る](#)



# 安養寺顯三の死を惜む

白山源三郎

京都水上競技聯盟名譽主事安養寺顯三が突如として死んだ。

五月廿五日の夜、京都の都ホテルで米國實業團の招待會があり、席上京都水聯會長小泉氏に久し振り面會した所、いきなり、安養寺の容態が昨日から悪いとの話を聞かされた。彼は五月の初から盲腸で入院、経過はよかつたが退院も間近になつて膽石病を惹起したらしく、ウンウンなつて居るとのこと、何も知らなかつた事とて驚いたが、安養寺の事だから滅多な事はあるまいと思ひ、汽車の時間のあつた事とて、見舞ひたいと思ひつつ即夜歸京したら、翌日追かける様に、京都水聯より安養寺死去の電報を受取り驚きやら、口惜しいやら、残念やら、名狀すべからざる心持に包まれた、こんな事もある事だらうかと云はざるを得ない、見るからに生活力の強い安養寺が死なうとは思はなかつた、今でもまだ信ぜられない様な氣がする、大澤保三郎先生、飯田光太郎氏、今また安養寺顯三、泳ぎで親しい強い人々がかくも死ぬ、何とも名狀すべからざる感に堪えられない氣持である。

安養寺は惜しい人物であつた。筆者は哀悼の意を電報で表すのに何としたらよいか考へたが結局「ザンネデス」と打電した、いまだ充分自分の氣持を現しては居ないが、見出し得た文字の内でも自分の心持を現すのに近い文字であると思ふ。年も未だ三十六才、其體力と、頭腦と、一寸珍らしいこだわりのない豪放な性格、之から彼に期待する所は多かつた筈である。

安養寺は(こふ呼び捨てるが自分の氣持にピッタリ来る)京都の商業實習學校を卒業しただけである。然し其頭腦、識見、人物に於て學歷を超越して居る、英語も器用に話すし、西班牙語は本格的であるし、物の理解、記憶に於ては我々の仲間でも一頭地を抜いた天稟を持つて居た、學校教育などを必要としない種類の間人であつた、之だけは筆者も常に敬服して居たのである。筆者は此點を最もよく知るが故に、彼の死は誠に「惜しい」と云ふのである。有用な人物であつたのである。

二十二三歳の頃と思ふが漂然と米國へ渡つた、彼地で何をして居たかよく知らないが、其豪快な性格と日本人としては珍らしい大柄の體格とは、彼地で面白い生活を行ひ得たと思ふ、必ずや多くの外人邦人に愛された事であらう。時には面白い通信を呉れた。彼地の運動界には相當重きをなし、齋藤君渡伯の素地を作つた。インチキ水泳選手との一騎打といふ面白い話もあつた。在羅五年にして、羅府オリンピックに際會し、羅府へ出て來た。此所で筆者は久

し振りに彼に會つたのである。

オリンピック羅府遠征チームと前後して歸朝した後、彼は京都の令兄を助け、不變獨身生活で家を持つたり彼一流の愉快な生活を續けて居た。京都水上聯盟の結成に當つては重要な役割をなした事は勿論其後人が入れ替つても彼一人中心に當つて其事業遂行に骨身を惜まなかつた。出身地である武徳會水泳部に於ては故大澤保三郎先生を助けて競泳部の發展に努力したが、先生逝去後は餘り顔を出さなくなつと聞く、然し大阪水泳協會とも連絡して關西水上競技界にはなくてはならぬ人物であつた。

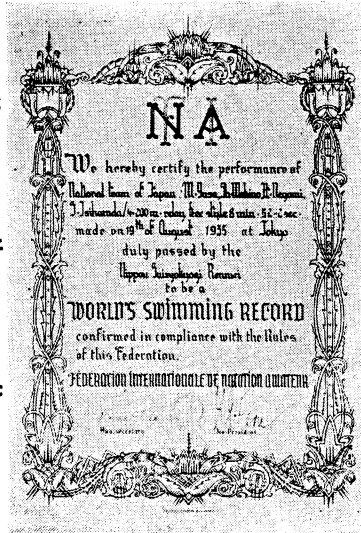
身體は極めて頑強であるがそれ丈に随分無理な活動をも平氣とするし酒は非常に強い爲時に大病をして居る。大正十四年の日本選手權を京都二商で引受けた時筆者と二人で一切の準備をしたのであるが、此時は二人とも寢食を忘れての準備であつた遂に彼は猛烈な胃痙攣を起した。南米から歸つてからはウイルス氏病で可なり長く入院した。そして今度の病氣である。今度も盲腸で可なり悪かつた様であつたが都合よく治つて來たのであつて、膽石病を併發してなければそんな事はなかつたらうと思ふ。

安養寺の泳は京都武徳會で幼少より鍛えたものである。競泳では國際競技場に出る機會はなかつたが五十米等は今でも二十九秒位では泳いで居た。最近ではゴルフを初めて之も少時にして相當の技術になつて居る様に聞いて居る。物分りがよく、何事でもどこでいつ習ふのかと疑ふ程、よく知つて居り、よく達して居る男である。

安養寺のサツパリした豪快な性格は人に好かれる彼の好者は隨所にあつたと思ふ、筆者も何となく氣持が合ひ特に親しくしたものであるが、同じ様な氣持を好いて居られる方が少なくない事と思ふ。葬式には彼の重い棺を京都水上聯盟の若い連中が志願して擔いださうである。令兄も「之程弟が皆様から可愛がられて居様とは思ひませんでした」と云はれた美談があるが之は彼の親まれる性格がなした業である

彼は愈々死期迫ると知るや、周圍の人々に一々挨拶をし禮を述べ最後に「然し面白い人生ではあつた」と最後に一言残して逝つたさうである、此若さにしてこれだけの達觀、之は確かに凡人でなかつたのである、それだけに惜まれて仕方がない。彼は三十六歳であるが、妻帯をして居なかつた、然もアツサリして居た、其點は不思議な程である、何か非凡な所がそこにもあつた。面白かつたと思ひ得た心境にはモット深いもの、常人の窺ひ得ぬものがあつた様に思へてならない。惜しい男であつた。惜しい男であつたとモウ一度言つて筆を擱く。(六・一一)

# 男子競泳世



# 界最高記録

## 自由形

1939--1--1

100m	P. FICK	(米國)	56.4	1936— 2—11	New Haven	25yds
200m	J. MEDICA	(米國)	2:07.2	1935— 4—12	Chicago	25yds
300m	J. MEDICA	(米國)	3:21.6	1935— 4—11	Chicago	25yds
400m	J. MEDICA	(米國)	4:38.7	1934— 8—30	Honolulu	25yds
500m	J. MEDICA	(米國)	5:57.8	1933— 6— 1	Seattle	25yds
800m	牧野正藏	(日本)	9:55.8	1935— 9—15	東京	50m
1000m	天野富勝	(日本)	12:33.8	1938— 8—10	東京	50m
1500m	天野富勝	(日本)	18:58.8	1938— 8—10	東京	50m

## 平泳

100m	J. BALKE	(獨逸)	1:09.5	1938—11—12	Bremen	25m
200m	J. KASLEY	(米國)	2:37.2	1936— 3—28	New Haven	25yds
400m	A. HEINA	(獨逸)	5:43.8	1938— 2—10	Copenhagen	25m
500m	J. HIGGINS	(米國)	7:18.8	1937— 2—20	Columbus	25yds

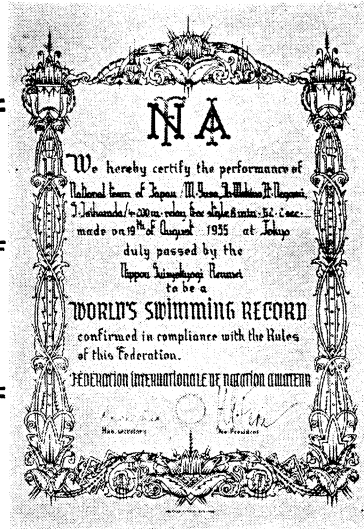
## 背泳

100m	A. KIEFER	(米國)	1:04.8	1936— 1—18	Detroit	25yds
200m	A. KIEFER	(米國)	2:24.0	1935— 4—11	Chicago	25yds
400m	A. KIEFER	(米國)	5:13.4	1936— 9—10	Copenhagen	25m

## リレー

400m	{ HIROSE JARETZ WOLFE FICK	(米國)	3:59.2	1938— 8—20	Berlin	50m	
		{ 遊佐正憲 杉浦重雄 新井茂雄 田口正治	(日本)	8:51.5	1936— 8—11	Berlin	50m

# 女子競泳世



# 界最高記録

## 自由形

1939-1-1

100m	W. DEN OUDEN (和蘭)	1 : 04.6	1936— 2—27	Amsterdam	25m
200m	R. HVEGER (丁抹)	2 : 21.7	1938— 9—11	Aarhus	25m
300m	R. HVEGER (丁抹)	3 : 46.9	1938— 1—23	Copenhagen	25m
400m	" "	5 : 06.1	1938— 8— 1	Copenhagen	25m
500m	" "	6 : 39.1	1938— 5— 1	Aarhus	25m
800m	" "	11 : 11.7	1936— 7— 3	Aarhus	50m
1000m	" "	14 : 12.3	1937— 2—28	Stockholm	50m
1500m	" "	21 : 45.7	1938— 7— 3	Helsingör	50m

## 平 泳

100m	H. HÖLZNER (獨逸)	1 : 20.2	1936— 3—13	Planen	25m
200m	J. WAALBERG (和蘭)	2 : 56.9	1937—10— 2	Gand	25m
400m	M. ENGFELD (獨逸) = GENENGER	6 : 19.2	1937— 3— 7	Copenhagen	25m
500m	J. SÖRENSEN (丁抹)	8 : 01.9	1937— 5— 1	Copenhagen	25m

## 背 泳

100m	J. v. FEGGELEN (和蘭)	1 : 12.9	1938—11—26	Anvers	25m
200m	" "	2 : 40.5	1938—10—26	Düsseldorf	25m
400m	" "	5 : 41.4	1938— 2—13	Amsterdam	25m

## リ レ ー

400m	{ E. ARNDT G. KRAFT B. OVEN PETERSEN (丁抹) R. HVEGER	4 : 27.6	1938— 8— 7	Copenhagen	25m
------	--	----------	------------	------------	-----

# 競泳合同練習記録會



昭和十四年四月二十日

大宮陸軍大学室内プール

シーズンの前に都下各大学水泳部は新人を含めて合同練習を帝大室内プールで行った。新人は入學試験等有り亦在來各選手もシーズン前の事と言ひ充分なる調子を示し得なかつたがいづれも本夏を期待し得る張切つた元氣で次の様な結果を示した。

## 100 米自由形

新井茂雄	立大	58.4
杉田芳郎	早大	1:02.0
杉浦重雄	早大	1:02.6
壹田重三	早大	1:03.2
森田	日大	1:07.4
浅見	立大	1:16.2

## 200 米自由形

吉田喜一	早大	2:18.6
鶴藤俊平	立大	2:19.4
宮本茂	早大	2:21.4
田中英作	早大	2:24.4
中村	日大	2:46.0

## 400 米自由形

馬場止	日大	5:05.4
本間俊夫	立大	5:07.6
越戸優一	日大	5:08.4
岩田務	立大	5:09.6
栗原徹	日大	5:15.2
岩切主	立大	5:21.4
伊藤	日大	5:23.8
天野富勝	日大	5:32.8
宇田守榮	早大	5:33.2
大淵	早大	5:43.2

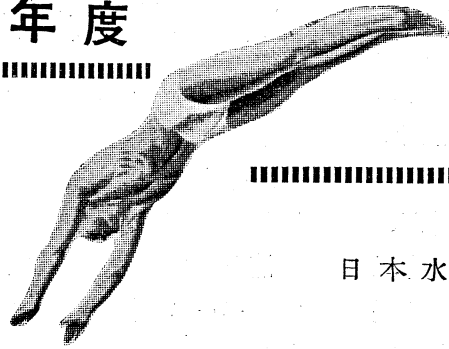
## 200 米平泳

葉室鐵夫	日大	2:41.8
(途中計時)	34.6 1.15.4. 1.58.4.	
大浦誠一郎	立大	2:46.0
(途中計時)	37.0 1.19.6.	
山田弘	早大	2:56.4
田口實	日大	2:57.8
川野隆三	早大	2:58.8
三輪壽雄	早大	3:00.8
加藤倭夫	立大	3:03.0
中山	日大	3:03.0
葉室貞男	日大	3:03.4
大林嗣生	早大	3:03.6
伊藤	早大	3:11.2

## 100 米背泳

兒島泰彦	慶大	1:09.4
谷口利弘	日大	1:10.2
平賀孟	立大	1:13.2
門屋桂	立大	1:13.6
山本恭之介	早大	1:14.0
河野道廣	日大 (参考)	1:14.1
原保夫	日大	1:15.2
中野太郎	早大	1:15.6
内館洋	早大	1:16.0
谷口辰三	早大	1:16.6
幸村甫	日大	1:17.8
山本	立大	1:22.2

昭和十四年度



## 早慶戦を顧みて

日本水上競技聯盟 齋藤巍洋

歴史と傳統をほこる早慶對抗水上競技大會は回を重ねる事此所に十三回、絶好の晴天に恵まれて六月四日正午から神宮水泳場で行はれた。水温、気温ともに廿度と言ふコンディションとしても先づ申分はなく従つて、各種目ともに生氣溢ふる、白熱戦が展開された。

記録的には千五百米における田中君(早大)の十九分卅一秒八、四百米の高橋君(慶)が作った四分四八秒、兒島君(慶)の百米背泳一分八秒八などいづれもシーズン初め、しかも大會前の不順な氣候に悩まされつゝ練習して、得た收穫としてはまことに素晴らしいものであつた、三君の現在のこの實力を持つてもこのまゝオリンピックに臨んでも立派に決勝に残り得る貫録を示した。そして水上日本として、世界に誇つて良いだけの立派な成果を収めた事は誠に喜ばしい。

對抗争覇では慶大の連勝なるか、早大の復讐なるか、戦前から興味百パーセントだつたが、慶大は小池君が卒業し寺田君が脚氣にて不出場、また宮崎君が下痢のため、ポイント・メーカーを失つた形だが、切角高橋君が四百米、二百米に早大の堅陣を撃破、二百米では島本君、四百米では片山君などがよく第三位に食ひ込み、二百米平泳、百米背泳にも五歩以上に闘つた、宮崎、寺田君の活躍を期待すべき百米、千五百米が大穴となつたが然し最後の八百米繼泳で勝敗を決するまでに早大を追ひ詰めた。その闘志まことに旺んなるものがあり、誠に稱讚すべきである。

一方早大は覇權奪回を期して、シーズン劈頭から東大における室内練習にも大舉参加、新人山下、宇田、重山、大物宮本君など中等界に堂々たる活躍をした新鋭を多量に加へ、牧野、新聞、片岡、永見等前オリンピック選手等に代る優秀新人を以て充實したスタッフを補充、田中君が先づ好調なるに伴ひ、宮本君等がこれに續き、杉浦君がカムバック、吉田君

が背泳、自由形兩刀を使つても十分な實力を示し、戦前は壓倒的優勢が傳へられてゐた、宮本君が、風邪にたゞられ、早大が初めの四百米を高橋君に譲つたため思はぬ苦戦、最後の八百米繼泳まで實に難航を續けやつとこれを物にして覇權を挽回することが出来た。

私は矢張りこの大會を觀て、最初の種目に悠々勝ちを占めなければ、その後の志氣に影響するところのものが大きく、容易に陳容を立て直すことが困難であることを痛感した。

四百米では早大は田中、宮本君と揃へ、慶大の高橋君に挑戦するのだから、誰れか一人は先づ高橋君のペースを攪亂しにかゝらねばならない。田中君などは千五百米では四百米のラップより優れたペースで飛び出して、しかも立派に成功してゐる、これだけの實力を持つてゐるのだから、今少し思ひ切つた試合をしても面白かつたであらふし、また期待されてゐた宮本君も八百米繼泳では二分十七秒で泳ぎながら、四百米を失つたばかりに二百米をも慶大の島本君に三位を許さねばならなくなつて了つた。だから、試合には先づ最初の試合を大切に、萬全を期してやらねばなるまい。

新人で特に活躍したのは妙中、禰津(慶)宮本、宇田(早)君などであつた。宮本君は別として妙中君が、百米背泳で山本、谷口(早)の先輩を喰つて三位に入り、また宇田君が千五百米で片山(慶)をゴール前で綺麗に離し、禰津君が百米自由形で井上君(慶)と同時にゴールしたあたり、新人としては素晴らしい活躍であつた。だが、未だ未だ現在の記録では満足と言へず従つて大いに精進が望みたい。

各種目のレースについて觀れば

◆四百米——先づ高橋、田中、宮本揃つて飛び出す。百米で宮本優勢だつたが、ストローク、脚力重く、二百米では2分22秒4で高橋トップを切り、二百米



後高橋スパートして軽く田中以下を振り切り、試合巧者の所を見せ、4分48秒の大会記録を得て優勝した、早大のホープ田中、宮本が完全に高橋の貫録に氣壓された形ちで、宮本が片山に敗れる惨めさだつた、慶大の意氣大いに揚る。

◆二百米平泳——長久(慶)君の優勝は先づ順當だ、古川(早)が百米で1分20秒2の長久君に一體身以上も引離される様では例へ百五十米を過ぎてから長久を猛然追つかけて、タッチまで追ひ詰めたとはいへ、長久君に軍配をあげたい。だが、二分五一秒二に止まつたのは小池先輩の後をうけこの實力で勝敗が決せられるのは一寸淋しい。

◆百米——前半二八秒四の井上君(慶)が僅かにリード、背泳から顔を出した吉田君(早)がよくこれに續き、杉浦(早)禰津(慶)君などがこれに續き、七五米邊から吉田、杉浦の早大陣が出てゴールで勝敗を決した、慶大は宮崎君の病氣缺場のため六一秒四の杉浦君に一着を譲つたのは残念だつたらう。しかし廿八秒四の前半ではこの不出來な記録も當然で矢張り短距離陣は出足の練習が必要だ。

◆百米背泳——兒島君の優勝吉田君の二位は順當であつた、妙中君が三位に入つたのは上出來、兒島君に一分七秒台が望めると思つたが、この日は滑り出し悪く、吉田君に頭丈抜かれ、前半吉田君の方が有利だつた、こうなつては如何に兒島君でも精神的に壓迫された形だから、思ひ切つたペースで泳ぐことが出來ない、矢張り、軽い速い出足の練習が大切である。

◆二百米——四百米で完全に制覇した高橋君が、百米まで杉浦、宮本君などを軽くマークし、百五十米邊では僅かにリード、ゴール寸前でタッチの差で杉浦君を破つたあたり、まことに見事な力泳振りだつた。

二分十六秒四の記録では大したものではないが、敗れた杉浦君などの方が問題だ、スプリントのある杉浦ともあらうものがどうして敗れたか、これは矢張りペースを間違つたためである。スプリントを利かせ、前半少なくとも一分二秒台位で入つて、高橋君を引離し少しでもあせる戦法でなければ、高橋君の術中にまざまざ陥らねばならなくなる。

◆千五百米——田中君が伸び伸びしたスパートで飛び出し、四百米四分五四秒八といふ單獨レースのペースよりも良いペースで泳ぎ續け、後半少し疲勞したために十九分三一秒八しか出なかつたが、千米邊まで理想的なペースであつた、日大の天野君の記録を狙つて十分であるから、今後の自重が望ましい。二・三位を宇田(早)片山(慶)君が仲よく争ひ、ゴール決勝で決したが、兩君とも得点を稼ぐために、競り合ひ、二〇分が割れなかつたがともに躍進が期待される。

◆八百米繼泳——優勝を賭けるこの一戦、だが早大陣トップ宮本で早くも勝敗を決し、宮崎、寺田君の缺場にも拘らず、善戦した然も總得点31—27で覇權をかへすことになつたが、早大の宮本君が二分一七秒で、また吉田君も十七秒で勝敗を決定づけ、最後を飾り早慶戦にふさわしい成績を収めて終了することが出來た。

## 第十三回早慶水上競技觀戰記

(東京帝國大學水泳部)

横尾 清吾、 小出 義彦、 川田 稔、 塚口 卓郎  
河野 日出雄、 八木 昭一、 圖師 忠、 北村 久壽雄

批評が座談より生れやうと否とに不拘座談會の記事は全く讀み難い、このため座談會の形式をとりはしたが記事としては別のものを書く様にと皆の希望だつた、時間的に餘裕がなかつたので結局一番避けやうと思つてたものに落ちついてしまつて申澤ないと思つてゐる。

一先づ早慶戦のもつ獨自と傳統と雰圍氣を頭に入れてやつてゆこう。

### 400米自由形

- (1) 高橋 弘(慶) 4:48.0
- (2) 田中 英作(早) 4:57.2
- (3) 片山 崇(慶) 4:59.8
- (4) 宮本 茂(早)

○宮本が一番問題になるね、もつと強くあるべきはずだつた。

一早く飛ばしすぎたね。

—あんなくせだ、つまり練習が下手だよ、最良のコンディションに持つてゆく事に未だ若いと云ふ気がする。

—新人らしいにほひが強いね。

—田中は飛出すべきだつたと思ふ。

—高橋は意外に強かつた、慶應の氣力と老練さが加はつて氣持がよかつた。

—片山ラストで宮本と宇田を抜いた所は賞しいね。

—宇田は未だ若い、大成を期せば1500オンリーで行くべきだ。400は難しいレースだからくさるよ。

—メンバーをみた時早稻田が勝つと思つた。

—とにかく早大に分があつたが、高橋の強さと宮本の弱さが對照して先づ慶應の善戦となり早大の失敗と結果をなしてゐると思ふ。

### 200米平泳

(I) 長久 俊三(慶) 2:51.2

(II) 古川 敏(早) 2:51.4

(III) 山田 弘(早) 2:57.0

—低調子な、古川はあれで勢一杯か、もつと飛出すべきだと感じたよ、何だか勝つ試合を失つた様に思はれるが。

—長久は責任を全うしたと云つても過言でない。あの逃げこみは賞しい。

—つまり老練と新人の戦ひだね。

—山田の57秒はどうだい。いい方と思はれる。ポロの影響を考慮に入れてね。

—然し小池なきあとの低調さは見逃せない事實だ、少くとも50秒はきらねばならんよ、その點古川に要望される所が一番多いね。

### 100米自由形

(I) 杉浦 重雄(早) 1:01.4

(II) 吉田 喜一(早) 1:01.6

(III) 井上 秀雄(慶) 1:02.0

—宮崎は如何した?

—病氣だつて。

—井上の飛出しはよかつたね、慶應には喰ひさがつてゆかうとする氣持が一杯だよ。

—杉浦はこれ位か。

—期待はずれだつた、61秒かゝる手はないよ。

—吉田は如何だい、對校戦上止むをえないか。

—吉田が大成を期して行くには自由形を止めて背泳に専心する事だね。

—早大も吉田が出たので淋しい氣しがた。

—慶大も短距離には人がゐないね。

—結局杉浦の老巧と作戦的に成功した吉田とフォームの綺麗な井上の飛出しが批評の進點となる。

—所で杉田(早)は如何したのか。

### 100米背泳

(I) 兒島 泰彦(慶) 1:08.8

(II) 吉田 喜一(早) 1:10.4

(III) 妙中 要造(慶) 1:14.0

—背泳は兒島以外には問題が多いね。

—妙中も14秒じやおそすぎるし又早大の谷口も全く如何したと云ひたい位だよ。

—あの昔の絢爛人の眼を奪ふ背泳陣のトリオ時代がなつかしい。

—吉田は背泳を諦めた様な感じの泳ぎ方だね

—競泳全般の感じだよ、少し以前の一流の連中否大物連が競り合つた時代がなつかしい。

—N・S・Rの國民皆泳運動も批判の點があるね。

—つまり良い選手を作るより全般的な運動に終始してゐる點だね。

—さびれ方は地方に行く程甚だしい様に思はれるよ。

—國民皆泳運動は厚生省にまかせてN・S・Rは大選手養成充實に専心すべしと云ふわけか。

—あゝせい、こうせいと云ふ事は厚生省まかせて——これは冗談だがね、一人でも傑出した人がゐる事は結局全體的に及ぼす影響は大きいよ、殊に地方は然りだと思はれる、英雄主義を排するセンチメンタリストの考へには疑問をもつ、英雄主義大いに可なり。

—末弘先生の云はれるピラミッド主義を上を高める専門の人と下に廣げ土台を固める専門の人が斷然分れる必要があるのだね。

—とにかく吉田が背泳に専心する事は兒島の進歩のためにも必要だね。

—吉田の立場はあらゆる意味に於て批判の中心となつてゐるわけだ、彼が今其境地をさがしてゐるものとすれば肯定的意味に於て考慮されて然るべしと思はれる。

### 200米自由形

(I) 高橋 弘(慶) 2:16.4

(II) 杉浦 重雄(早) 2:16.4

(III) 島本 信美(慶) 2:18.0

—先づ高橋だ、慶應自由形陣のために奮闘してゐる彼には、はつきりした實力と貫祿がついてしまつたね、地味で思ひ上らぬ所實に頼母しい限りだ、宜しくスポーツマンはかくあるべしだ。病氣欠場の寺田を加へて中長距離自由形陣を席卷してゐたら早慶戦はもつと面白かつたらう。

—高橋の100過ぎてからの猛烈なダツシュが特に眼についてゐる。

—宮本は新人のにほひが強くつきまとつてゐる。

—おそいピッチでへばる泳ぎは如何だらうか。

—ピッチの上らぬ人は飛出すべきだと思ふが。宮本は確かに上つてゐた、中學時代はあのペースで立派に勝つてゐたがインタカレッヂ級になるとさうは行かぬ、もつと大試合にもまれてペースの研究を積むべきだ、それに氣分の點を加へて。

—杉田は如何した、後で抜く事より始めから飛出す事を考へたらどうだらうか、島本はそれで確かに成功してゐたと思はれたが。

—200の時の100ラツプはどれ位か普通かね。

—1分3秒あたりかね、今日の様に6秒ではおそすぎる、結局島本の飛出しは普通で杉浦がおそすぎる事になる。

—然し高橋と杉浦の一騎打も若し杉浦がブライندوقコースでなかつたらと云ふ事も考へてみたいがね

—2分16秒と云ふ記録は堂々たるものだよ、それを大して悪くもないと感じられる所に日本水泳陣の強さと充實さが看取されるね。

### 1500米自由形

(I) 田中 英作(早) 19:31.8(大新)

(II) 宇田 守榮(早) 20:04.4

(III) 片山 崇(慶) 20:06.4

—田中の獨舞台だつたね。

—シーズン始めとしては實に大記録だつたよ。

—田中の飛出しが氣に入つた、之で早大は勝つと思つた、早大の氣分にぐつと活力が入つた様に見えるよ。

—田中のフォームは如何だらうか。

—田中の叩附ける手は一概に悪いとは云へない、彼はそれを利用してゐた様に思はれる。

—調子をつけてゐたんだね。

—リズムに乗つてゐたよ。

—然し決して模範的ではない、田中のフォームは人がまねするものでは決してない、この事は強調し

ておく必要がある、手を叩附けても尻がわれぬ所がよい所と思はれる。

—400に於ける田中の失敗(敢て云ふ1500に對照して)は結局ペースの問題だね、400單獨のタイムより1500の時の400のラツプが速いなんて全く愉快だよ。

—400のレースは難しい事を示すものかね、田中は元氣一杯に飛出すに限ると思つたね。

—田中の右手がよく外へ出る、一般に早大の人が殆んど右へコースしてゐたが(特に800リレーの時)練習の時は如何になつてゐるだらうか。

—宇田は殊勳をたてたわけだね、ラストスパートがよかつたよ。

—宇田と片山の競合は早慶戦の傳統と特殊性を示してゐた、田中がゐなければ満場總立ちの熱戦が展開されたわけだつたね。

—宇田に注意したいが1500は長いからペースが難かしい、若い人は人に喰ひついて行つて余力をもつて泳ぐ之は試合の時はそれでいいが練習の時は始めから殊に1000米あたりから飛出す練習をすべきと思はれる。然し20分4秒は彼としてベストに近いタイムじゃないかと思はれる。

### 800米繼泳

(1) 早大 9:07.8 (大新)

宮本、吉田、田中、杉浦

(2) 慶大 9:17.0

島本、瀧津、片山、高橋

リレーで勝敗が決まると云ふので熱戦を豫想したが案外の開きになつたね、然しタイムとしては堂々たるものだつたよ。

—宮本が始めて調子を出したので何だか安心した様な氣がした。

—全般的に觀たら如何だらうか。

—近年にない試合だつたね、傳統と云ふか雰囲気と云ふか選手諸君は非常に張切つてゐたが何だかぎどちない試合だつた、試合の重壓だね。

—水上競技の華は對校戦にするんだね、それに比べると日本選手權は個人的で興味が無い。

—六等迄得點したら如何だらうか。

—試合がだらけてしまふだらう。

—一等の三點なんかスペキュレーションみたいだね。それに三等の一點と四等の〇點の開きも單なる數學上の差として印象されない。

—僕は少し早大が勝つたと思つたよ。

—宮本を評價しすぎてゐたからね。

—新人つて實際もろいね、餘りおだてられる故かね。

—そこが逆に云つて老巧の老巧たる存在理由だよ  
オリンピックを前にして漠然たる希望が湧いて來た  
が下から押上つてくる新しい刺戟が少し欲しいと  
思つた。

—宮崎主将の初缺場は彼自身にしても残念だらう  
がしかし痛いね——氣分的にね。

—山田主将は偉いよ、早大入學以來芽も出さ比較  
的下積生活にもくさらず、立つては早大軍の主將と  
してよくあれだけの挽回をしたものだ。

—何だか日本の水泳界が早慶戦を中心にして再び  
生氣を取かへして盛上つて來てゐる感じだね。

—本當だ質實剛健——くだけて云へば品があつて  
而も落ちついた強さを感じるね。

(得 點 表)

早	慶
2 400自	4
3 200平	3
5 100自	1
2 100脊	4
2 200自	4
5 1500自	1
3 800繼	0
22 計	17

—次に飛込に移らう。

—飛込はよく分らんが練習不足の感が深い、特に  
小柳に氣分のゆるみか、練習不足の感がした。

—新人久保は豫想外によかつたと思はれる。

—練習不足の感は飛板より高飛込に深かつた。

—加茂は如何したらふかね。

—何だか難易率の高いものばかりねらうやうにな  
つた感がしたが。

—じや水球へ行かう。

慶大	早大
岡田 G、K	山田
松本 L、F	小野
和田 C、F	山本
名取 R、F	越川
石原 H、B	奥田
河原田 L、B	谷口

中村 R、B 壹田

(得 點 表)

慶 早
6 — 2
1 — 2
7 — 4

—全體的に非常に熱のある試合だつたね、去年に  
比べると悪質の反則が少いのみが目立つたよ。

—兩軍キーパーの出來の悪かつた事は得點の多い  
事に關係してゐるが早慶戦と云ふ試合の特殊性が精  
神的に影響した事は否めないね。

—然しあれで兩軍キーパーの實力が現れた様な氣  
がしたよ。

—和田の好い意味に於ける圖々しさ乃至落着は慶  
應にとつて誠に力強いものであらうか早大にとつて  
は全く仕末に悪いものだらうね。

—和田に對するマークの研究の跡が見られなかつ  
たじやないか、和田のマークの研究に成功したのは  
日大バツクの森田とキーパー田口のコンビだつた  
ね。

—うんさうだあれは殆んど完璧だつた、あの森田  
のアウトサイドマークとカットは感心した、早大は  
慶日戦をみてゐるのに何故一層研究し採用しなかつ  
ただらうか、僕はそれを疑問に思つて居るがね。

—然し奥田が足を掴まれつつ而も之を振り切つて  
横へ外しながら抜いて行つた強引さは何だか舊套に  
對する新しき反撃と云ふ力新しきポロへと強引にダ  
ツシュしてゐる姿の様に印象させられた。

—然し慶應陣も大前の抜けた後のコンビは未だ完  
成してゐるとは見えない。

—さうだ慶應は和田をフロートに残して逆チャン  
スに成功したのは僅に一つだつたと思ふ、つまりバ  
ツクの連絡がうまくできてなかつたと思ふ。

—和田はマークされすぎてゐたが杉本がよく動い  
て點を稼いでゐたね、之に名取が例の三角形の頂點  
となつて縦横に連結してゐたら和田、杉本の活躍も  
もつと華々しかつたらう。

—名取は谷口にがっかりとやられてくさつてたじ  
やないか。

—早大は和田をフロートに残したまゝ總出動で慶  
應陣に攻め込み結局人が多すぎてパスが悪くその上  
あはてて點をとりそこなつたね。

—一つは小野、越川にのみシュートを集中させよ

らとする點もあつた様だが。

—谷口はむしろ後方に下るべきだつたね。

—越川は石原にがつちりマークされてハンドリングの妙をみせなかつたが僅かに慄悍小野が素速い得點を重ねたが後半になつてあせつたがバツクシュートが決まらず、ともあれ無理してゐた點がみえた。

—小野は優秀だつた、奥田と共に。

—慶應のバツクが強いと云ふより早大のフ、ワワードが強かつたと見られたが。

—山本は一寸まづかつたねそれと谷口はもつとマークへ専心することとハンドリングを練習すべきだと思つたよ、今此處でハンドリングの持つ大きい意味は改めて言はないが。

—さうだ水球の戦術はますます進む必要があるも、技術はますます基本的なものに重きをおく必要もあると思ふ、ボールも手につかないで一寸見苦しいからね。

—岡田は前半はどうかと思つたが後半はよかつたね。

—山田は和田にのみ警戒しすぎてロングシュートに得點を許してゐたね。

—あゝ河原田にやられた時が。

—注意すべきは和田に非ずしてボールにありか。

—和田と山田の一騎打は悲壯だつた、あのシュートがバーにでもあたつてゐたら興味深々だつたがね。

—然し全體的にみて終始試合に熱があり意氣に戦つて而も泥合戦にならず對校戦の限りを盡した綺麗な品のある試合は絶讚しても過言でない。

—老巧和田松本の奪鬪、好漢奥田のダツシュとドリブル、果敢小野の全軍を引しめリードした意氣などね。

—又元に戻るが奥田は和田を抜く事に成功したと云へるが日大程には成功しなかつた。之も一つの成功と云へるだらうと思つてゐる。

—とにかく早慶戦の早慶戦らしい意氣と感激の重點は始めから終迄センターボールを争つた所にあるじやないか。

—そこだ。

—じや時間もおそくなりましたのでこゝらで。

—うそつけまだお晝すぎだぞ。

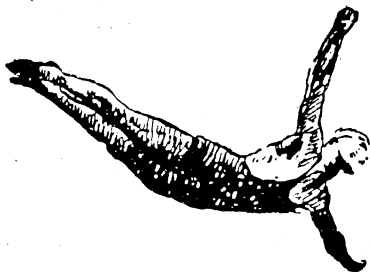
—では別室の用意もとのひましたからどうぞ。

—何があるんだい。

—水ならあるよ。

—じや此處らで水を入れることにするか。

——盲言多謝——



## 早慶飛込競技觀戰記

日本水上競技聯盟 原 秀 夫

當日の飛込プールに於けるプールコンディションは氣温二〇度、水温十九度と發表され、快晴、微風、六月初の飛込競技としては先づ絶好のコンディションであつた。其して兩軍選手が早慶の名の下に終始立派な競技態度で眞新しい飛慾から技に競つたことは競技成績から見て兩軍共に末だ充分と云へない點が多々あつたとは云へ、我國に於ける唯一無二の、對抗飛込競技として眞に立派であつた。

其してオリムピック候補二名を擁して二七點對十七點を以て見事に連勝した早大飛込チームに對し最初に先づ満腔の敬意を表する。

戦前より今年の早慶飛込競技には次の二つの事が期待されてゐた。

その第一は水上聯盟の方針により今年から初めて實施される男子飛板飛込の新規定飛に對し各選手がどの様な解釋をするか、どの程度に飛びこなすかと云ふ事であつた。

その結果は、五種の新種目の内、最も飛び難いと思はれる第五群の「後飛半回捻り」を除いては皆一樣に相當な評點を得て居りオリムピック候補の小柳久保等は練習時間の不足にも拘らず既に相當飛びこなして居たことは我が國の飛込技術の急速な進歩を物語るものとして嬉しかつた。

然し、最初から危惧されてゐた如く、第五群の「後飛半回捻り」は矢張り全員未だ未完成である。勿論他の四群の種目に比し、特に充分な研究と練習時間



の必要な「捻り飛込」の事故、細評を下すは時期尚早の感はあるが、それだけに必ず将来への解釋と練習方法を誤らぬ様に、敢て私見を述べる。一體に「捻り」に掛るのが早過ぎるのは従来よりの日本人の捻り飛に對する共通の缺點であるが、今度の場合にもこの事が多分に現はれてゐる。即ち踏切に前より捻りに對する關心が強すぎて完全な後飛の踏切りで飛び出してゐる者が一人も居なかつた。従つて、最後に現れた結果を見るに、全員一様に、完全に半回捻つて居りながら、角度の悪さによつて減點されて居り、角度が完全に真直で「捻り」の足りない者は一人も無かつた。尤も「捻り飛」の解釋には色々あり果して何れが最も良しとは斷じ難いが、少くとも現在迄の解釋中では、後飛を完全に飛び、最初から「半

回捻り」に囚はれずに、 $\frac{1}{8}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{2}$ の如くに段々に練習して行く方がオーソドックスの様に思はれる。

各校マネジャー、コーチの諸兄に今一層の研究を願ひたい。

期待の第二は昨年日本選手権大會の奮闘により一躍オリンピック候補に選ばれ、今春、第三神港から、早大へ入學した。久保及び昨年秋のインターカレッジ頃より次第に進出して來た。慶應の新人、岩佐、佐藤等の新進の活躍如何であつた。

結果は、佐藤が選擇飛で奮闘した外、前二者とも練習不足で、聊か期待を裏切られたが秀れた素質の片鱗を見せ、今後の練習如何では矢張り將來の大成が期待される。

飛板飛込得點表

競技順	姓 名	所屬	規 定 飛					規定飛 合 計	選 擇 飛					合 計	順 位
			1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		
1	北 田	K	11.26	5.12	11.38	7.28	9.60	45.28	13.32	11.02	8.36	12.00	9.12	99.06	5
2	永 原	W	9.76	10.08	12.06	6.16	8.96		11.16	11.31	12.30	11.21	10.00		
3	岩 佐	K	7.04	7.36	6.12	5.04	7.04	32.60	12.78	12.80	10.62		12.73	91.53	6
4	久 保	W	11.64	11.04	11.88	9.52	11.04		13.65	9.24	14.80	14.52	10.58		
5	佐 藤	K	8.64	6.40	12.06	8.68	9.28	45.06	14.40	4.46	14.20	12.06	13.49	105.67	3
6	小 柳	W	12.80	13.28	13.68	11.06	9.92		15.99	11.76	18.92	17.16	14.49		
								60.74							

得 點 早 大 15點 慶 大 7點

競技成績及經過

飛板飛込

戦前の豫想では、Aクラスの小柳（早）の一位は問題なく、久保（早）北田（慶）の二位争ひ、永原、佐藤、岩佐の三位争ひと大體三つのグループで戦はれると思はれたが北田（慶）の意外の不調によつて、一、二位は問題なく、他の四人の猛烈な三位争ひとなり、規定飛では永原（早）四七・〇二、北田（慶）四五・二八、佐藤（慶）四五・〇八、岩佐（慶）三二・六〇の順であつたが佐藤は選擇飛に移つて極めて好調で遂に第三位を得たのはその奮闘眞に目覺しかつた。

小柳は、練習不足で未だ充分調子が出ず僅かに、選擇飛第三の「逆宙返り一回半」で完璧な技を見せたのみで總得點一二九・〇六に止んだが、昨年度の堅實が大分脱れて來た、柴原（日大）と共に、日本

の飛込界を、双肩に擔つてゐるのであるから、尙一層の精進と、今夏の成績を期待して止まない。

久保は、北田（慶）の不調で樂々と二位を獲得したが、腰から下の伸びに難點があり、小柳との間には未だ相當距りがある。

一日も早く、一流に追いつくために、一日二百回程度の猛練習を望む。

岩佐（慶）は、完全に上つてしまつたコチコチになり極めて不調で最下位になつたが、その飛込振りには前途洋々たるものがある。

好漢尙一層奮起して、最近不振の慶應飛込チームの爲めに之又猛練習を望む。

高飛込では、昨年より果敢な飛込振りで進出して來た矢野（慶）の小柳への肉迫が期待されたが入水の技術に於て、小柳に及ばざる事數等、遂に十數點離されて二位となつた、不振の慶應チームの中に

## 高 飛 込 得 点 表

競技順	姓 名	所 属	規 定 飛				計	選 擇 飛				合 計	順 位
			1	2	3	4		1	2	3	4		
1	小 柳	W	9.00	8.17	15.77	11.85	44.79	13.60	16.94	14.74	16.80	106.87	1
			8.16	14.44	6.84	10.35		11.68	12.42	11.40	11.39		
2	北 田	K	8.40	10.26	9.88	9.45	39.79	11.34	10.08	9.50	12.16	86.68	2
			8.64	11.21	10.64	10.50		13.86	11.04	136.8	11.56		
3	永 原	W	5.04	12.54	7.98	9.15	37.99	11.52	12.96	13.87	11.39	81.07	3
			5.04	12.54	7.98	9.15		11.52	12.96	13.87	11.39		
4	矢 野	K	6.96	12.16	5.32	6.90	40.99	9.76	8.74	11.02	7.84	91.13	4
			6.96	12.16	5.32	6.90		9.76	8.74	11.02	7.84		
5	久 保	W					34.71					84.45	5
6	奥 島	K					31.34					68.70	6

### 得 点 早 大 12点 慶 大 10点

あつてその奮闘は眞に賞するに足るが、飛板の練習により空中感覚、入水技術等をもう一層練習しなければ總点一〇〇点以上は望めない。此の点の再考を期待する。

小柳の高飛込は、矢張りシーズン始めの練習不足の感強く、未だ充分とは云へないが昨年比して高さに対する感覚に、格段の進歩を見せ、その秀れた神経と相俟つて今夏柴原との争覇が益々期待される、入水時に腕の力の弱さから入水姿勢の崩れが屢々見受けられるが尙一層の工夫と補強が望ましい。

飛板の不振に奮起した北田（慶）の三位はその奮闘眞に目覺しかつた。

毎年不遇で然も體力的に恵まれぬ同君に、この競技によつて、高飛込への新しい分野が開けたのではなからうか。

久保の高飛込は未だ何と云つても未完成である飛板で會得した空中感覚によつて二、三鋭い良さが見受られたが細評を避けて將來を期待する。

最後に此の機會を利用して、此の早慶戦の飛込競技の將來の爲に二三、愚見を述べて見たい。

それは競技種目に關する事であるが、毎年此の競技の結果から見て又競技前に特に充分な準備と練習時間の必要な飛込競技の性質から云つても此の早慶飛込競技が必ずしも日本選手権種目に依らねばならぬ事はなく寧ろ、多少數を減じて各選手の負擔を軽くし、然もそれだけ從來より以上に充實した各競技を行ふ方がより良い様に思はれる。そして之に依つて競技時間の短縮が行はれ、競泳種目の中に狭つて兎角時間の掛り過ぎるキラヒのある飛込競技が張り切つて行はれるとすれば甚だ合理的ではなからうか。飛板高飛込兩種目の數が減つて、物足りなければ、兩軍より四名宛位のチームを作つて一人一種目の飛板高飛込混合のチームゲーム等が行はれても良い様に思へる。兩校關係者諸兄に御一考を促して此の稿を終る次第である。 (以上)

### ク ロール の 必 然 性

クロール泳法が日本に初めて行はれ出してから十數年の経過を見た譯であるが、此間に我國は今やもう世界一流の水泳王國になつた、従つてクロール泳法を行ふ者が年を數ふるに従つて増加され世界的大選手が中等學校級に迄見られる様になり夏のスポーツの興味は一つに水泳に注がれて居る。クロールは必して六ヶ敷しい泳法ではなく先ず犬掻きの次に來る最も自然的な泳法で初心者さへ容易に習得出来る泳法である、クロール泳法の型、スピードには色々其差こそ有れ例へば一時に一流選手の様によく泳ご

ふとしても不可能の事で練習と研究が加へられねばならない。一方クロールが容易に出来ると言ふ實例はプールの近邊或は河の有る地方とか、特にクロール競泳の盛んに行はれて居る地方の子供達が誰に教はるでもなく、亦其形態を直してもらふでもなく、然も立派にクロールで泳いで居る例を見ても分る。日本古來の泳法と異つて其型に捕らはれる事なく最も自然に最も早く泳ぐ爲に工夫され改良された泳法であつて、しかも時代を通じて次第に改善され來つた、一方亦各個人の性格と體格によつて最も合理的に習得出来る泳法である。

# 第一回 團體長距離競泳

## 全國大會醫事班報告

(主任) 齋藤 亨	笹島 彦次郎	金子 五策	稻玉 信吾
土屋 國太	武智 基造	山形 文雄	高塚 賢三
多田 秀	鈴木 素介	前島 巖政	坂 東 浩

### 第一 總 說

日本水上競技聯盟が國民精神總動員の一翼として、その全機能を舉げて精神作興、體位向上を分担し、その目的を果す爲めに國民皆泳を目標として水泳普及に努力し、その成績も大に向上しつつある時、新たに本大會を企圖した事は意義ある事であつた。近年日本の競泳は世界に覇を握つたが、この競泳池に於ける水泳の發達を圖ると共に、これに並行して四面海である我國の地勢に適應して海洋の水泳に進出しなければならない。殊に現時局下にあつて團體競技たる特殊性と、海洋泳破の豪壯性を満喫させる本大會計畫は興行價值百パーセントと云ふ所であつた。

吾々は本競技會が初島——熱海間十キロの長距離コースであると共に、それが我國未曾有の團體競技である事に注意しなければならない。特に醫事班關係者に於て見逃す事の出来ない重大關心事である。それは團體競技であつて、「チーム」の一人が落伍しても全部が失格する事になるから、「チーム」中の比較的弱い者は無理をして泳ぎ、それが落伍する時は最後の危険線迄到達して居る事のある場合が想像出来る。茲に於て海上に於ける危険が倍加されるのである。此の點に吾々は本競技會の特殊性を認め、救護設備には萬全の策をとつた。

次に吾々は本競技會の特殊性に鑑がみ、今日迄測定されて居る普通遠泳或は競泳池に於ける競泳に於ける體力検査の結果とは異なる醫學的成績を豫期して、あの會場に於て出來得る限りの體力検査施行を計畫した。その結果に對しては期待するものが多かつた。然るに水泳競技としては未曾有の當日の荒天に會つてすっかり期待が裏切られた。皆泳「チーム」六組丈けでは統計もとれない。然し一方から言ふとあの荒天でなければ際會する事の出來ない種々な貴重な經驗をした。吾々醫事班委員十數名の名を

以て、以下之を摘録し、今後同様な競技會の參考に供し度いと思ふ。猶本記録は純醫學的論說ではなく、雑誌「水泳」の爲めの原稿として書いた事をお断りして置く。

醫事班は體力判定員と救護員とに分れて居たが殆ど全員が兩方を兼務した。連名の他に熱海醫師會員中から多數の諸君が御補助くださつたが御姓名を逸した、又沼津、熱海兩醫師會員の本委員は各自の病院から醫局員助手看護婦を帶同され、又熱海看護婦會員の犠牲的奉仕及び熱海市側の委員、軍人會、青年團等の諸君の獻身的な御援助、陸上救護所に旅館を提供され種々な便宜を與へられたる大月館山田氏等多數諸君の好意に對し深甚なる感謝の意を表するものである。(此項文責齋藤)

### 第二 競技前健康檢診

本競泳が我國未曾有の團體競泳であり、四人の泳者の中一人が落伍してもチーム全體が失格する規約である以上、全泳者の力量及びその日の調子が同一である事は絶対難かしいから、指揮者が餘程上手に指導しないとその中の弱い者が無理をする事になる。殊に十キロの長距離中には重大な結果をも豫期される。そこで救護員なる者が他の水上競技會に於ける役柄とは異なつた大きな責任を感じる事になる。此の意味で吾々は競技申込と同時に醫師の健康證明書を提出せしめ、猶競技前日に競技者全部(指揮者、泳者、補缺泳者)を檢診して「長距離競泳に不適當なる體質者又は病者の檢索」を実施し、事故を未然に防止せんとした。

競技の前日八月六日午後一時より四時迄熱海市小學校に於て他の醫學的研究を目的とする身體検査と共に、主として下記疾患の檢診を施行した。

- 一、呼吸器疾患
- 一、心臟疾患
- 一、脚 氣

## 一、腎臓疾患

上記検診の結果を下記の三種に區別した。

- A. 高度の運動に對し危険あり泳者として出場を禁止す可きもの
- B. 輕症にして出泳禁止に至らざるも指揮者に對し特に注意を與ふるもの
- C. 健康なるもの

上記の中Aの決定は救護員全員の協議の結果とすること。救護員主任は検診結果の決定次第直ちに審判長に報告すること。審判長はこの結果により出場チーム及び泳者の最後決定をなし同日午後六時熱海區民會館に於て發表すること。

以上の要項により検診した結果は大體良好で、判定Aに屬するものなし。Bに屬するものとしては、三四名の蛋白尿者があつたが、種々検査の結果、前からの注意に反して午前中高度の水泳練習をした爲めに起つた運動性蛋白尿。又競技前に體力を畜積する爲め（無意義な事だが）澤山の生卵を食した爲めの食餌性蛋白尿と判定して單に指揮者に注意して置いた。その他は全部判定Cに屬する健康者であつた。（此項文責齋藤）

### 第三 救護準備

本競技の性質上重大なる危険を豫期して、救護準備に付ては萬全の策をとつた。七月末醫事班準備委員會を熱海市役所に開催、熱海市助役その他市側の委員及び金子、稻玉、土屋、高塚、多田、山形、齋藤、等醫事班委員集合し、救護一般原則、救護方法、救護所及び救護船の準備、藥品材料の準備、體力検査の範圍方法等を協議確定した。然し乍ら當日決定した救護準備は極めて用意周到なるもので、實を云ふとこんな大袈裟な事は不要ではないかと思つた。所が當日のあの悪天候に會つて、之等のものが全部必要だつたのだから驚ろいた。若しもこれらの藥品材料の準備が無くて救急處置が不能だつたら、危なく犠牲者を出したかも知れないと思ふと戰慄を禁じ得ない。次回競技會の爲め、今回の準備の中から必要と思はれる部分を摘録して置くのは最も緊要なる事と思ふ。

救護一般原則の中より

五、競泳中の泳者に對しては緊急止むを得ずと認むる場合の他、監察員指揮者又は泳者自身の請求あるにあらざれば救護する事を得ず。

競技中泳者の一人が救護班の救護を受けるとそのチームが失格する規定の爲め、各救護員は前條の原則によつて手を出すことに、固く申合せて置いたのだが、當日の様な悪コンディションに於ては非常な危

険を伴ふ故救護員の權限に於て、もつと早期に救護の手を下してよいと思ふ。指揮者も泳者も「助けて呉れ」とは中々言はない。その中に最後の線迄來て了ふのである。

### 救護方法

#### 一、各チーム付添船

- イ、救助竿を各船に準備する事（約二間の竹の尖端に繩にて輪を作りたるもの）
- ロ、救護を要する患者を生じたる時は監察員は船旗を振り救護船を招くこと

#### 二、救護船（三隻）

- イ、大型船三隻を準備する事（熱海市責任引受）
- ロ、赤十字旗をかゝげること
- ハ、日除幕を準備すること
- ニ、乗組救護係員（各船）
  - 一、救護員（醫師） 二名
  - 一、看護婦 一名
  - 一、救護助手事務員 三名（熱海市衛生課員又は學校衛生係）

ホ、醫療材料は熱海市醫師會にその用意を依頼し本大會終了後、使用品實費を日本水上競技聯盟より支拂ふこと

醫療材料として用意せるもの次の如し（各船共）

#### 一、小外科用藥品材料器具

##### 一、赤酒（シロップ入）

##### 一、腹痛に對する内服藥（アルカリ劑）

##### 一、船量に對する内服藥（ビタミンB、メンタ重曹）

##### 一、アンモニア水（「カツヲノエボシ」刺傷に對し）

##### 一、小注射器酒精その他注射材料

##### 一、注射液、強心劑「ビタカンファ」「デキタミン」「安ナカ」「強力ビタミンB劑」其他「ナルコチカ」

##### 一、葡萄糖注射液（5%500 c.c. 25%50 c.c.）及注射用具一式

##### 一、酸素吸入準備

##### 一、飲料水及コップ、氷三貫目、清涼飲料水

##### 一、湯沸し器、湯たんぽ

##### 一、毛布五枚、タオル五枚、浴衣五枚

以上の救護船準備は當日の荒天で船腹不足した爲め計畫齟齬し、救護に大きな欠陥を來したのは残念だつたが、幸にして事無きを得たのは天祐だつた。

#### 三、陸上救護所

- イ、大月旅館を救護所に當てること

- ロ、赤十字旗を掲揚すること
- ハ、擔架を二組用意すること
- ニ、藥品材料は救護船に於けると同様準備する  
他、選手の結膜炎に對する處置として一%  
「コカイン」水、〇・五%硫酸亞鉛水各點眼料  
用意のこと
- ホ、上陸せる選手に對して水飴湯を用意すること
- ヘ、勤務救護係員下記の如し
  - 一、救護員（體力判定員兼務） 五名
  - 一、看護婦（同助手兼務） 五名
  - 一、救護助手及事務員 十名
 （熱海市衛生課員、青年團員等）

陸上救護所には上陸せる泳者は必ず一度入場する規約になつて居り、同時に各種體力検査を実施した青年團員は病人の擔架運搬に努力された。（此項文責齋藤）

#### 第四 陸上救護所に於ける救護狀況

陸上救護所に於て取扱かつた患者は陸上で發病した者は殆どなく、主として競技に出場した泳者であつた。

全泳者の中にも相當疲勞の劇しい者があつたが、安靜、飴湯の給與、保温等により速やかに元氣を回復した。その中に高浪の爲め決勝線に到着することの出来ない救護船が、途中で救助した泳者を、東京灣汽船發着所に揚陸し、擔架で運搬され或は戰友に背負はれて相ついで到着した時は、救護所も一時悲壯な光景を呈した。然しその大部分は全泳者と同様急速に元氣を回復して行つたが、その中で救護船から來た一人は相當重篤な心臟衰弱を起して居て、強心劑、「ビタミンB」濃厚葡萄糖の靜脈注射等を施行し、その夜は熱海の病院に入院させたが翌日全治歸郷した。

これ等の途中事故泳者につき、その原因を調査してみると、大體三つに分別する事が出来る。

- 一、疲勞に因るもの。
- 二、空腹に因るもの。
- 三、高浪に酔ひしもの。

本競技が海上の「コンディション」良好で、又豫定された時間に競技が終了して居たならば、大部分は皆泳し得た選手達であつた。當日の荒天で伊東方面から豫定されて居た船が全部回航不可能となり、他の船の集合も極度に遅延し、船に關する豫定計畫は全部狂つて了つた。漸やく遅れて出發した船中では、初島へ到着する迄に澤山の船酔者を出した。その爲め初島到着後朝食を攝る事の出来ない泳者が澤山あつた。又競技を執行するや否やも不明だつた當時の

状態で出發時間も不明だつた爲め、指揮者が泳者に食事させる時間を失なつて了つたチームもある。そんな状態でスタートは切られたのだ。

單なる疲勞に因る者も荒天空腹等によつてその度を助長されたらうし、同チーム内泳者の泳力の相違から來る速力に關係して起つた者もあつたろうと思ふ。空腹に因るものは殊に年少者に多かつた。これ等は陸上マラソン競技に於けるが如く、適當なる途中給食を許されたなら成功し得ただらうと思ふ。今後の研究問題として残る問題である。泳いで居て浪に酔ふと言ふ事は初めて知つた事實だが、原因は全く船酔と同一で、當日の高浪の爲めの特産物であつた。症状も船酔と全く同様に、初め「ムカムカ」氣持悪くなり遂に嘔吐して苦しむが、陸に上れば同時に回復する。海上救護員は可なり多數の此の「浪酔者」を見たらしい。

以上の他の海上の疾病の事は海上救護の條項を参照され度い。又此の他に興味ある眼科の患者があるが同様に別項を参照され度い。（此項文責齋藤）

#### 第五 眼科領域に於ける處見

初島——熱海間團體長距離競泳の當日救護員の一人として特に眼科の検査を行なつたので、眼科領域に於ける當日の結果を茲に簡単に御報告する。

特に眼科の検査を施行するに至つた動機は、本大會に多數の選手を出場せしめた横須賀海軍チームが大會前、本初島——熱海間コースで練習やら豫選やらを執行した際、決勝線前で多數の一時的視力障害者を發生し決勝線が見えなくなり、泳者は自分の針路を定める事が出来なくなつた。こんな事は今日迄東京灣内で施行された遠泳に於ては一度も見なかつた現象であるとの事で、醫事班に對してその原因につき意見を徴されたから醫事班はその真相の調査に乗り出したのである。

豫めお断はりして置かなければならない事は、検査と言つても至極簡單で暗室は勿論の事、其の他の眼科的設備は無く、又上陸した泳者は皆非常に疲れて居た爲め、上陸後直ちに視力検査を行ふ事は到底出来なかつた。従つて視力障害の程度も全然不明で、只問診により視力障害の有無を辛うじて知る位の程度であつた。今後も斯の如き試みは引續き行なはれる事と思ふが、當日の泳者の模様から見て視力検査の如き自覺的検査は不可能事ではないかと思はれる。

當日の検査の結果を極く簡単に言へば、一つは結膜炎であり、一つは角膜濁濁による視力障害である。結膜炎は海水の刺戟により起つたもので泳者の殆



ど全部に見られ、中には甚しき急性加呑兒性結膜炎を起し、眼瞼結膜穹窿部のみならず眼球結膜も著しく發赤して居るのを見られた。

併し何と言つても重大なのは角膜溷濁による視力障害である。元來角膜は其前面を涙液により、後面は前房水により直接浸されて居り、謂はゞ一種の液體（生理的食鹽水）の中に浸されて居るやうなものであり、此の液は恒に規則正しく流れて角膜實質内に停滯しない機構に出來て居る。此の機構が障害せられた場合、即ち角膜面に接する液の變化により、角膜の含水状態又は水代謝が障害されて、角膜の變化、即ち實質性の溷濁が現はれる。一般に角膜實質に於ける含水量の變化は角膜溷濁として現はれる。實驗的に體温と同温度の淡水を灌流し一時間繼續すると角膜は全般的に溷濁する。又食鹽水を使用すると〇・八五%の生理的食鹽水では角膜溷濁が起らないが〇・八%食鹽水になると僅かに〇・〇五%の差ではあるが角膜は溷濁する。海水中に含有される鹽分は其の土地の氣象、潮流の有無、河水流入の有無等によつて相違するが大體に於て海水の表面は三・一%乃至三・八%の鹽分を含んで居る。太平洋特に我が國南海岸の海水の鹽分含量は約三・五%位であるから熱海の海水もまづ之と略同様と見て差支へなからうと思ふ。此の強い鹽分を含む海水の中に三時間も四時間も泳ぎ續けたのであるから、自由型泳法の如く殆ど顔を海水中に入れて居る者は勿論の事、平泳又は日本泳法を用ひた者でも、假令海水中に顔を入れて居る時間が少なかつたにした所で、あの高浪では常に海水を顔に被ぶり、従つて眼も海水で洗はれて居ただけだから、海水による滲透壓の變化の爲め、角膜の含水状態或は其の水代謝が障害され、角膜溷濁が發現したものと思はれる。

東京灣に於ける海水の鹽分含有量は判明しないが、河水の流入等によつて熱海邊より稀薄ではないかと常識的に考へられる。此の鹽分の含有量の關係で、著名な視力障害を起すに至らないのではないかと想像される。

溷濁の濃度及び廣さは種々で様ではなかつたが、甚はだしいのは電燈を用ひず肉眼でも角膜が灰白色に一面に溷濁して居るのが見られた。残念乍ら當日暗室の設備が無く、勿論細隙燈とか角膜顯微鏡の如き洒落れた物も無く、加之、泳者は疲勞困憊甚だしき爲め仔細に検査する暇もなかつたが、暗室で仔細に検査したならば、泳者の全部に必ず大なり小なりの變化があつた事と思はれるし、又、視力検査をしたならば程度の差こそあれ全部に視力障害が

有つた事と思はれる。猶、此の視力障害は、上陸して原因がのぞかれると短時間で回復する。

當日は波浪非常に高く怒濤逆巻くと言つた様な悪天候であつた爲め、泳者の全部が常に顔に浪を被り自由形も平泳も一樣に海水に顔を浸して居るやうな状態になつて了つた爲め、兩者の間に眼科的處見の著しい相違を認める事が出来なかつたが、あれが波靜かにして自由型の人は海水中に顔を入れ、平泳の人は海面上に顔を出して全コースを泳破したならば、必ずや視力障害を起す率にも相違を來したらうと思ふ。後日の研究を期待する。（此項文責鈴木）

## 第六 救護船に於ける救護狀況報告

### イ、競技前身體検査雜觀

待望の初島——熱海間長距離團體競泳が明日に迫つた日に、參加者の身體検査を救護班で手分けして、熱海小學校で行つた。これは單に參加可能か否かの検査なるのみでなく、競泳前後に於ける種々なる醫學的検査の比較の基礎をなすものである爲め是非必要である。此の検査に當つて、先づ第一に困つたことは、選手の脈搏數である。只に検査されると云ふこと以外に、大會規定により五名一團となるので、一人缺けても其の組は出場不可能となるので、各選手が、身體検査に落ちてはとの心配からであろうが、大多數に於て、心悸亢進を精神的に起して居つたことで、夫れは遠泳前後の脈搏數比較に於ても、明らかに見られる所である。次に、尿中に蛋白が證明されるも、然も血行器に、異狀を認められぬ者が、三四名あつたので、よく聞くと、昨日も終日、今日も午前中、長時間水泳練習して、然も明日の「エネルギー」の資源にと、今日晝食に際し、生卵子を數箇呑んだと云ふ者が、尿蛋白の證明される者の、殆んど全部であつた。二三時間の後に再三検査したが、依然として尿蛋白が證明される。然し夫れ以上の時間を経ての再検査は、明日の救護準備等の爲めに、不可能である故、此れ等選手に就ては明日特に注意することにして、食餌性、運動性の蛋白尿と思はれるものは、皆検査を通過させたが、翌日の、あの荒天中の遠泳に際しては、此れ等の選手諸君に、間違ひがなければよいが、萬一にも、間違ひがあつたなら、甚だ責任を感じねばならぬことと、並々ならず心配した。此れ等の事柄は、次回の競遠泳検査に際して、何とか考へねばならぬことと思ふ。

### ロ、激浪中の競技開始

遠泳當日は、甚しき荒天にて、暴風雨とも云ひ得る天候として、指導船、救護船等豫定と相違し揃はぬので、連絡船にて荒天中を初島に渡航中、頭より

激浪を被り、雨は甚しく、救護員全部全くの濡鼠となり、寒さに震へつゝ初島に着いたが、此の激浪と闘ひつゝ、遠泳實行されるとすれば、實に危険多く吾々救護員は重大なる責任あり、如何に奮闘なすとも或は不行届のことなきか、所謂不可抗力とも云ふ様なる場合生ずる可能性多大にて、競技會前充分なる手配なす可く、救護員一同種々協議し計畫準備せしも、事實は計畫と餘りにも甚しき相違にて、荒天の爲め伊東方面の船來着せず、三隻の計畫なりし救護船の割當は二隻となり、然も其の一隻は大會役員等の便乗せることとて、救護船としての活躍出來ず、實際に救護に携はる船は只一隻のみにて、果して重大任務遂行出來得るやに甚しき憂慮を禁じ得ざるに至つた。斯かる間に豫定の時間経過し、實行如何を案じ居りし大會も、幹部の決意により決行に移り、怒濤の間に泳者、指導船を隠見するや、只一隻の救護船は、微力なれども決死の覺悟にて、其の重大なる責務を完ふす可く荒浪の中に乗り出した。

#### ハ、出發後の混亂

初島海岸より數町浪を破つて出た所が、他の大多數の泳團と掛け離れた一團が、左方遙に殆んど伊東に向ふかの如くに、波間に隠見するものがある、然も其れには指導船が附いて居らぬので、此れは大變と、其の方へ船を走らせ近づくと、皆元氣に一團となり泳ぎ居るに安堵せしものゝ、指導船なきことゝて、其の儘他の泳團と全く掛け離れたる無聯絡の狀態に置くは、甚しき危険なること言を俟たぬことながら、此の一泳團にのみ附隨し居りては、他の大多數の泳團に要救護者生じたる場合を想像せば寒心に堪へず、全く只一隻の救護船なることの不備を痛感した、他より離れ泳げる泳團に指導船を捜し知らず故自重ある様、波風の甚しき騒音に妨げられながら告げ、心配なしつゝ、大多數泳團の群がれる前面に急航し、各泳團に元氣を附けつゝ、泳者と離れたる指導船を探し求むるに、風浪の爲め少しく距離ある船には聲達せず、手指等にて泳團番號を示し、半時間余にて漸く探し得た。該指導船も懸命にて泳者を求めつゝありしも、浪高き爲めと、浪頭の飛沫にて掛け隔たる泳團を發見出來ず、只々多數泳團の近傍を彼方、此方、全速力にて走り廻り居りし狀態にて、自分の泳團の所在分明せし爲め大に喜び居る様子なり、自分等も是れにて心置きなく本來の救護事務遂行出來る様になりしこととて一安堵せり。

#### ニ、力泳中の各泳團

風浪の爲め押流されたる者多きが、遠泳團全體の兩端可なり隔り、且つ大浪の爲め見透し利かず、全

速力にて左端より右端に、又引返し、右端より左端に走り廻る忙がしさ、其の途中各泳團に變異なきやを大聲にて呼び廻ることとて聲は嘎れ、然も潮風に吹き捲られ、咽喉はいらいらする様になりつゝも、激浪と闘ひ元氣に泳ぎ居る選手達、特に少年組の元氣なる様子を見ては氣も張りつめ何の苦痛も感ぜず、一向に無事目的達成をのみ祈願しつつありしに、時間の推移につれ、泳團の先頭と末尾との距離甚しく大となり、救護面積甚だ廣くなり、全速力にて走り廻るも全面積の警戒困難を感じつつも、行き遭ふ各泳團に異状なきやを問ひ、元氣を鼓舞し廻るに、「腹が空いて仕方がない」と答ふるもの次第に數を増し來り、特に年少の泳者に此の叫び多きを見たり。

#### ホ、海國日本青年の意氣

彼方、此方にて追々指導船に選手の乗船する者あるを見、其の泳者に間違なかりしや、要救護者生じ居らざるやと、往きつ戻りつ其の現場へ走り附けねばならず、愈々救護の手傳に困却せしも、幸に要救護者を認めず、何とかして一隻にて間に合はせ居られしこと、誠に幸のことにて、若し不幸にも、二三にて要救護者生じたらんには、其の一つを救護中に他の危険生ぜしこと必定なりしならんと、今思ひ出しても肌に粟を生ずる心地せらるる次第である。

追々に棄權乗船の泳團多くなり、遠泳繼續組は減じたるも、各泳團の前後距離は益々大となり、全く見透しも附かずなりし爲め、全體の監視不可能ならば、前方を主にす可きか、後方に力を注ぐ可きかの問題起り、協議の結果ゴールに近づくに連れ無理する爲め危険は前方に多かる可き故、救護船はゴール近くに行く方可ならんと一決、直ちに快速にてゴール近くに行きしに、果せる哉指導船の一隻より「要救護」の呼聲あり、扱はと皆不安に狩られつゝも、直ちに救護準備をなす一方急ぎ該指導船に近づくと、泳者の一人船中に昏倒し居り、同船の選手、指揮者等の甚しく不安氣なる模様見らる。要救護者を救護船に移すこと激浪中にて甚だ困難なりしも、寸時の猶豫も許せぬ狀態とて、危険を冒し辛ふじて救護船に移し診察なすに、全然意識を失ひ、全身冷却、蒼白、鳥肌を立て、脈搏觸れず呼吸は停止し居るに一同寸時顔色を變ぜしも、幸に瞳孔猶ほ散大せず、心臓の鼓動微かに聞ゆる様なる心地するを一縷の望とし、全船の醫員、看護婦、救護員は準備せる如くに即刻各部署に就き、或る者は人工呼吸、或は酸素吸入、強心劑注射、靜脈注射等と迅速に運ばれ行くも、浪高く船の動搖甚しく、或は酸素「ポンプ」が轉々して足趾を挟まれ、又輕業師の如くに船の動搖

と身體の平衡との調子を合せつつ、細くなれる靜脈に注射なす等救護に努めたるも仲々呼吸始まらず、人工呼吸動作の度毎に鼻口より夥しき水泡を排出し、一術者疲るれば他の者と、入り替り立替り努力を繼續せるに、漸く脈搏を觸れ、多少呼吸動作も起り來りしに一同力を得、猶も奮闘せるに稍々意識も出で來りし様子故、皆々大聲にて「確りしろ」と呼びたる聲に眼を開く。アツと一同喜ぶ瞬間、選手の第一聲は「もう決勝線へ入りましたか」との問い、其の心情を思へば、誰も中途棄權等との言葉は余りに慘酷にて迂も口には出でず、異口同音に「安心しろ、決勝線へ入つたぞ」と答へると、次で「何着でした」との問い、「二着、二着」と答へると「そーですか」と云へる儘、安心せし爲めか再び昏々と眠りに陥りたるも、最早や呼吸、脈搏も確りとなり、責任ある救護員一同は互に顔見合せ「ああよかつた」と云ふ、此の短時間の光景は實に涙の出る場面であつた。選手が意識を失ふ迄自己の責任を果す可く努力し、果して責任を果したるや否やを、意識回復の第一聲として發することは、名譽ある大日本青年の意氣を示すもので、此の意氣こそ戰場にて名譽ある戦死に際し、「天皇陛下萬歳」を唱ふる心情と同一にて、我が皇國の光輝を世界に發揚さすもの全く此の一念にありと思はれ、自ら目頭の熱くなるを禁じ得なかつた。

へ、悲壯なる「ゴールイン」——帝國軍人精神の發露幸に一命を取り戻したる青年を、再び荒浪と闘ひつつ擔架にて上陸させ、救護班陸上部隊に引き渡し再びゴール目指して進航するに、ゴール一町手前にて某海軍泳團の一選手浮きつ沈みつせる状態を目撃し、「ソレ」と急ぐ途中、一少年團の指導船より大聲にて救護船を呼びつつ來るあり、扱ては案じ居りし不祥事勃發か、船は一隻救護は二ヶ所となりしかと心膽を寒からしむ、少年團船に「どうした」と問ふに、中途にて斃れたる一少年選手先刻より起しても起してもすぐ睡るとのこと、「意識は」と問ふに「起せば氣が付くがすぐ又睡る」とのこと故稍々安堵し、早く陸上救護班の所へ行けと告ぐ。本救護船は危險迫れる海軍泳團目指して行くに、一泳者全く疲れ切り海中に没する故、指導員に「上げるか」と呼ぶに「今少し待つて呉れ」と指揮者の返事、最早ゴール迄二三十間と思はるる所故、泳團員の心持を察すれば無理に棄權せよとも云へず、去りとて其の儘見捨ても出來ねば暫時様子を見るに、海中に没したる泳者は再び水面に浮上ると、船上より指揮者は大聲を發し「確りやれ」と叫び、泳團員も助力を與へつつ「今

少しだ、確りしろ」と叫ぶに、疲れ切りたる泳者はふと眼を覺したる如く、つと泳ぎ出す。一二ストロークは稍々力ある様なるも、次で力なく辛ふじて手を水面に出す様になり五六ストロークすると再び動かなくなり水中に没し相になる、指揮と他の泳者が再び大聲にて呼ぶに、暫時して、ふと思ひ出したる如くに泳ぎ出すと見る間に又動かなくなる。救護船は只はらはらとして其の圍りを廻航し、「すは」と云はば救護す可く目を見張る。ゴール迄最早何間もなき迄に迫りたるも、堪り兼ね「上げるか」と再び問ふに、指揮者は「今少し。ゴールに入つたら直ぐに上げて下さい」と答ふ。自分等も心配しつつも、人間の實際に溺れんとする現場を、まざまざと仔細に目撃し貴重なる經驗を得た。勿論泳者の意識は不明瞭となり居り、自己の責任感の潜在意識によりてのみ、泳ぎの動作を時々繰返すならんも、終始其の泳團に定められたるクロール形のみを行ふこと、實に感銘す可きことと思はる。今や力儘き將に溺れんとする時の状態は、吾々が池中の鯉、金魚等の死に瀕して、動かなくなるかと思ふに暫時して思ひ出したる如く泳ぎ出し、泳ぎ出したるかと思ふ間に動作不活發となり、再び腹を上を動かなくなり、今度はと思ふと又泳ぎ出し、此れを繰返しつつ次第に弱り行くに全く一致せる状態を示す如く思はる、此の泳者は軍人精神を發揮してか、遂にゴールに達し得ること誠に偉とするに足る可し。只一隻の救護船は、此の泳團に釘付けにされ居ることとて、他の泳團に要救護者なきかと、延び上り、延び上り後方を見るに、激浪の爲め中途上船の已むなきに到りたるもの多く、次ぎ次ぎと船にて岸に來り、ゴール近くに來れる泳團僅少なりし爲め不都合を生ぜざりしも、其の當時の心配は實に並々ならず思はれた。再び海上を一巡し幸に何等不祥事なきを確め、濡れ且つ疲れたる體を陸上に運び、本部救護所に至り、口中の沙と混りたる一杯の番茶を、ぐつと呑み下し、漸く責務を果したる心地に、やれやれと安堵す。

#### ト、競技終了後の感想

計畫當初、余りに大袈裟かと思はれし、葡萄糖注射や酸素吸入装置等準備も、此れ在りてこそ、一人の命をも損ぜざりしことを一同大に喜び合へり。

今回の壯舉に際し、完泳せる泳團甚だ尠なく中途棄權の多かりしは残念至極のことなるも、此の原因は單に荒天の遠泳にて波浪高かかりし爲めに疲勞の多大なりしことのみ據るにあらずして、寧ろ、選手空腹による疲勞増加こそ最有力の一因ならんかと思はる、早曉起き出で、荒浪を頭より被り、船は

木の葉の如くに揉まれつつ熱海より初島への渡航中多くの者は大なり小なり船酔気味あり、爲めに初島にての朝食攝取充分ならず、且つ天候の爲め出發時間遅れ遠泳半ばにて早や正午となれる爲め、泳者中の相手多數は早朝より碌々食事せざる状態にて激浪と苦闘せることとて、激烈なる空腹感の爲めに疲労一層甚しく中途棄權の已むを得ざるに立到れるもの多かりしかと思はる。此の點に關しては遠泳中途にて空腹を訴へたる者、年少泳者に多く、常態に於ても成人より腹の空き易き年少泳者に完泳せるもの皆無にして、完泳せる泳團は比較的壯年者多きもののみなりし事實に鑑みても推知され得る所にして、云ひ古されたる「腹が減つては戦は出来ぬ」の諺を如實に示せることと思はる、向後一考を煩はす必要あらん。

空腹が中途棄權の一大原因を爲せし事柄に就きては、荒天の爲めに初島出發が豫定の時間より遅れたることが期せずして本遠泳に甚大なる幸を招致せしことと思はる。出發時間遅れたる爲め空腹による疲労を訴へ初めしは、多くは全コース中ば附近なりし故に、泳者、指揮者共に迂も決勝點迄は達し難きを自覺し、甚しき無理せず涙を呑みて棄權せしも、若し出發の時間早かりしならんには、激甚なる空腹疲労を感じる頃には決勝點に近づき來り居る可く、眼前に決勝線を見ては是非共完泳し度しとの希望の爲め、自然甚しき無理を行ひ、要救護者多數生ず可きは當然にして、彼方、此方に救護船、救護船の悲愴なる叫び起りたらんには、只一隻の救護船にては充分なる救護不可能にして或は遺憾事生ぜしならんと想像され今猶ほ戦慄を感じる次第にして、實に出發の遅れたることは今回の壯舉に神護ありしことと感銘に堪へざる所なり。

返す返すも次回の此の種競技會舉行に當りては、救護船の數を増す可きことにして、一隻のみにては危嶮此の上もなく、責任ある救護員は第一に自己の無力感、不安感の救護さへ困難なり。今回の遠泳に何等間違發生せざりしは全く天祐とこそ申す可きなり。(此項文責金子)

### 第七 出場者の身體検査成績報告

昭和十三年八月七日、静岡縣初島・熱海間(十料)に於て行はれたる第一回團體長距離競泳全國大會に出場したる全國水泳選手の身體検査を執行して得たる成績の要點を左に報告せんとす。

#### 一、被檢者

團體長距離競泳出場者總數 一五五人  
(泳團數 三〇團)

年齢別員數左の如し。

十二歳(一人)、十三歳(三人)、十四歳(四人)、十五歳(十六人)、十六歳(一人)、十七歳(一人)、十八歳(八人)、十九歳(九人)、二十歳(一五人)、二十一歳(八人)、二十二歳(六人)、二十三歳(九人)、二十四歳(四人)、二十五歳(八人)、二十六歳(六人)、二十七歳(六人)、二十八歳(六人)、二十九歳(二人)、三十歳(四人)、三十一歳(一人)、三十三歳(二人)、三十四歳(二人)、三十五歳(一人)、三十七歳(一人)、四十歳(一人)、四十一歳(二人)、四十五歳(一人)、四十六歳(一人)、四十七歳(二人)、不明(三人)

但し十二歳とは満十一歳一日より満十二歳迄の者なり以下之に準ず。

#### 二、検査方法

余等は、先づ、競泳出場者一五五人を競泳前日に、熱海尋常高等小學校に於て、別検査票に掲ぐる諸項目に就て測定せり。就中、身長、體重、胸圍、呼吸縮張差、胸幅、胸厚、坐高、指極、體溫、脈搏數、呼吸數、最高・最低血壓、脈壓、比體重、比胸圍、比坐高、比指極の諸項に就ては、吉田章信博士著「體力測定」に依り測定或は算出し、胸幅・胸厚指數(稻玉)は稻玉式に従ひて乳嘴の水平面に於て、胸廓前後徑及び左右徑を測定して  $\frac{\text{胸廓左右徑}}{\text{胸廓前後徑}} \times 100$  の式に依り算し、呼吸停止時間は餘考按の器械に依りて、一深吸氣の最終時より徐々に呼氣を行はしめつゝ出來得る限り延長・頑張らせ、次の吸氣の始る迄得たる時間を測定したり。檢尿は蛋白質及び糖に就て検査し、要に應じて鏡檢せり。眼は視力及び眼疾の有無に就て検査せり。

次に、競泳後の檢測は、全泳者に對して、着陸直後、熱海海岸の大月旅館(本大會事務所)に於て、呼吸數、脈搏數、體重、最高・最低血壓、脈壓、尿、眼に就て施行せり。

#### 三、検査成績

余等は、左の四題目に就て、先づ調査研究を試みたり。其の成績左の如し。

- 一、競泳出場者の年齢別體格及び體力
- 二、競泳出場者の泳法別胸廓形及び指極と身長との關係
- 三、全泳者年齢別・泳法別の競泳前後に於ける體重、脈搏數、呼吸數、最高・最低血壓、脈壓及び尿の變化
- 四、全泳團體着順別の競泳前後に於ける體重、脈搏數、呼吸數、最高・最低血壓、脈壓及び尿の變化

No.

## 第一回團體長距離競泳全國大會

## 出場選手身體檢查票

チーム番號	測定日時			昭和	年	月	日	午	前後	時
チーム名				姓名						
指揮者	泳者	補缺泳者		生年月日			年	月	日生	
住所	府縣	郡市		町村						
職業				選手年數						
泳法	自由形	平泳		背泳	日本泳法			流形		
身長	.	cm		比胸圍	.					
體重	.	kg		比坐高	.					
胸圍	.	cm		胸幅・胸厚指數						
呼吸縮張差	.	cm		比指極						
胸幅	.	cm		體溫	°			/ C		
胸厚	.	cm		脈搏數						
坐高	.	cm		呼吸數						
指極	.	cm		血壓	最高	最低		脈壓		
比體重				呼吸停止時間			秒			
眼										
既往著患										
疾病異常										
檢尿成績	蛋白	糖		鏡檢所見						
檢查意見	A.			B.			C.			
備考										

## 競泳終了直後檢查票

チーム番號	測定日時			昭和	年	月	日	午	前後	時
チーム名				姓名						
チーム着順	番			所要時間			時	分	秒	
脈搏數	(±)			體重	kg		(±)			
呼吸數	(±)			血壓	最高	最低		(±)		
眼				脈壓	(±)					
檢尿成績	蛋白	糖		鏡檢所見						
備考										



### (一) 競泳出場者の年齢別體格及び體力

先づ、團體長距離競泳出場者の身長、體重、胸圍、胸幅、胸厚、坐高、指極、比體重、比胸圍、比坐高、比指極、身長と指極との差、胸幅・胸厚指數、呼吸縮張の差、最高・最小血壓、脈壓、脈搏數、呼吸數及び呼吸停止時間を測定・算出したるものを年齢別に整理せる成績は第一表の如し。

本表に於ける特別の事項左の如し。

出場者の體格就中身長、體重、胸圍は、何れも本邦通常人に比較して、概して優秀なり。殊に胸圍にありては著しく發達し、従つて比胸圍の如きも、彼の吉田章信博士報告の第九回極東選手權競技大會參加水泳選手の夫れ（平均五三・四）に比すれば及ばざるもの多數なるは止むを得ざるも、之を凌げるものも相當に見受けられたり。

比指極は、概して稍大なり。

血壓は、概して比較的低し。

呼吸數及び脈搏は比較的多く、呼吸縮張の差及び呼吸停止時間は比較的少し。

### (二) 競泳出場者泳法別の胸廓形及び指極と身長との關係

余等は、平泳、自由形、日本泳法の三泳法別に參加者の體格就中胸廓の形狀及び指極と身長との關係を見たるに、第二表に示す成績を得たり。

本成績によれば、胸幅、胸厚指數に在りては、員數多數ならざる關係上斷言困難なるも、平泳者の指數値が自由形泳者のそれに比して大なる如く思はる。

而して、日本泳法のそれは平泳に近似せるが如し。

次に身長と指極との差に在りては、指極の身長に勝るものは、平泳に於ては調査員數五六人の内三三人にして過半数を占め、自由形に於ては七八人の内三七人にして半数に達せず。又、日本泳法に於ては三六人の内一九人にして、其の半数以上を認む。而して其の關係は前二者の中間に位するを見る。

### (三) 全泳者年齢別・泳法別の競泳前後に於ける體重、脈搏數、呼吸數、最高・最低血壓、脈壓及び尿の變化

團體長距離競泳の身體に及ぼす影響を、年齢別に泳法別に觀察する爲に、全泳者に就て測定せる競泳の前後に於ける體重、脈搏數、呼吸數、最高・最低血壓及び脈壓の平均值並に檢尿成績第三表に示すが如し。

此表に觀るに、若年者即ち十八歳以下の者に於ては、體重の消耗度は概して大なるを見れども、心臟

並に肺臟に及ぼす影響即ち彼の脈搏數、呼吸數及び血壓等に於ける變化は概して比較的小なるものゝ如し。而して脈壓の變化の如きは寧ろ十八歳乃至廿五歳階級の者に於て著明なるを見る。

檢尿成績は、十八歳以下の者に二人、十八歳乃至二十五歳の者に四人、二十五歳以上の者に二人の競泳直後蛋白尿を證明したり。

又、泳法別に觀察するに、最も強く身體並に心臟等に影響を及ぼしたるは、二表に示せる如く、自由形を第一位とし、平泳は自由形に比して同程度なるを見る、而して日本泳法は兩者の中間に位するが如し。

### (四) 全泳團體着順別の競泳前後に於ける體重脈搏數、呼吸數、最高・最低血壓、脈壓及び尿の變化

長距離競泳に於ける團體的努力が身體並に心臟等に及ぼす影響を觀る爲に、着順別に、夫々、全泳團體に對して測定したる競泳前後に於ける體重、脈搏數、呼吸數、最高・最低血壓及び脈壓の平均值並に檢尿成績を示せば第四表の如し。

本表に見るに、第一着泳團は、流石に全力を傾注せる跡、歴然たるものあり。即ち體重より觀たる勢力の消費度は、六全泳團中最大にして、平均值に於て二・七疋を算し、最も減量せし選手は實に（一）四・四疋なる見る。又脈搏數の變化は泳者四人の内三人の増加者と一人の減少者を見たり。血壓に在りては最高・最低共に陰性者なかりしも、脈壓に在りては陰性者を認め、其の平均值二五・〇耗汞柱を算し、而かも一人は實に三六・〇耗汞柱の陰性を示し、全泳者中の記録保持者たり、以て如何に奮闘努力したるかを物語るものと言ふべし。呼吸數の測定は遺憾ながら二人の脱漏者ありて完全なる異動を知るに由なし。

前者に次いで、身體及び心臟等に影響を比較的強く受けたりと認めらる者は、最後の第六着泳團と第五着泳團とにして、體重の減量度は、第六着泳團第二位にして、脈搏及び血壓に於ける陰性者の多數を認めたるは第五着泳團及び第六着泳團の順位なりとす。又競泳直後に蛋白尿を證せし者も第六着泳團に二人、第五着泳團に一人ありき。而して此等三泳團共に泳法は自由形なりとす。

却説、全泳團中最も身心に影響の些少なりしは、第二着泳團の平泳團にして、第四表に示すが如く、同團の泳者には、唯、競泳直後程度の蛋白尿を排泄せし者一人ありし外には、殆ど特記すべきものを認めず、而して同團員はゴールインしたる時にも尙體力の餘裕綽々たる觀を呈したり。

第一表 團體長距離競泳出場者の

年齢	員數	身長	體重	胸圍	坐高	指極	比體重	比胸圍	比坐高
11—12	1	134.0	29.0	64.0	73.0	130.0	21.5	47.8	54.3
12—13	3	136.2 ± 0.93	34.3 ± 0.12	71.3 ± 1.47	75.0 ± 0.84	133.7 ± 1.63	24.7 ± 0.68	52.7 ± 0.74	55.3 ± 1.80
13—14	4	156.0 ± 1.45	43.3 ± 0.90	76.0 ± 0.06	84.0 ± 0.58	152.8 ± 1.52	27.8 ± 0.37	49.3 ± 0.65	54.3 ± 1.47
14—15	16	154.3 ± 0.94	45.2 ± 0.74	78.4 ± 0.46	85.2 ± 0.60	154.4 ± 0.88	29.4 ± 0.40	51.0 ± 0.42	55.3 ± 0.25
15—16	11	163.9 ± 0.79	53.4 ± 0.99	84.1 ± 0.69	89.2 ± 0.62	164.1 ± 0.97	32.3 ± 0.44	51.3 ± 0.47	54.4 ± 0.25
16—17	12	164.1 ± 1.24	55.5 ± 1.17	84.7 ± 0.71	89.8 ± 0.93	164.8 ± 1.56	33.8 ± 0.48	51.8 ± 0.36	55.0 ± 0.16
17—18	8	163.8 ± 1.56	56.0 ± 0.36	86.5 ± 0.62	89.8 ± 0.76	164.5 ± 1.46	33.9 ± 0.54	52.8 ± 0.35	54.9 ± 0.25
18—19	9	165.4 ± 0.70	59.2 ± 1.10	88.1 ± 1.66	92.2 ± 0.46	165.0 ± 1.06	35.8 ± 0.50	53.1 ± 0.25	55.8 ± 0.23
19—20	15	164.3 ± 0.72	57.1 ± 0.71	87.3 ± 0.73	90. ± 0.41	165.9 ± 0.94	34.8 ± 0.43	53.1 ± 0.69	54.9 ± 0.29
20—22	14	163.9 ± 0.83	54.2 ± 1.23	86.5 ± 1.00	90.2 ± 0.61	163.3 ± 1.04	33.1 ± 0.68	52.8 ± 0.64	55.1 ± 0.18
22—25	21	165.6 ± 1.20	60.6 ± 0.74	90.1 ± 0.62	90.8 ± 0.64	166.8 ± 1.28	36.6 ± 1.24	54.6 ± 0.51	54.3 ± 0.22
25—30	24	164.2 ± 2.82	57.1 ± 2.05	86.3 ± 1.28	90.8 ± 0.99	164.3 ± 2.05	34.6 ± 0.97	53.3 ± 0.78	55.4 ± 0.39
30—35	6	163.1 ± 1.79	60.5 ± 3.10	91.9 ± 1.67	90.9 ± 1.91	163.3 ± 2.62	37.1 ± 1.54	56.2 ± 0.48	55.6 ± 0.24
35—40	2	158.5 ± 2.10	60.1 ± 0.95	91.3 ± 0.72	88.0 ± 1.43	162.5 ± 0.24	38.0 ± 0.95	57.7 ± 1.19	55.6 ± 0.24
40—45	3	157.5 ± 0.72	49.3 ± 0.61	83.8 ± 1.43	85.6 ± 1.15	161.0 ± 1.29	31.4 ± 1.25	53.5 ± 1.63	54.2 ± 0
45—47	3	154.3 ± 2.26	55.0 ± 0.72	87.0 ± 1.15	85.3 ± 0.84	159.0 ± 1.06	36.4 ± 1.25	56.1 ± 0.74	55.4 ± 0.37
不明	3								
計	155								

備考 「身長ト指極トノ差ニ於テ」 (十)ハ指極ガ身長ヨリ大ナルモノ、(一)ハ指極ガ身長ヨリ小ナルモノ、

第三着及び第四着の泳團は共に、表に示すが如く其の變化状態は、夫々前三者に次ぐものにして、其の被りたる影響も、前の三者に比較して漸次輕減せる模様に見受けらる。此の二泳團の泳法は共に平泳なり。

#### 四、總括・考按

以上の成績を總括・考按すること左の如し。

- 第一回團體長距離競泳全國大會出場者の體格は概して通常人よりも優秀にして、而も胸圍に於て特に然るを見たり、之れ斯る競泳には自ら絶

年 齢 別 體 格 及 び 體 力

比 指 極	身長ト指 極トノ差	胸 幅 胸 厚 指 數	呼 吸 縮 張 差	血 壓		脈 壓	脈 搏 數	呼 吸 數	呼 吸 停 止 時 間
	(+)(±)(-)			最 大	最 小				
97.0	- - 1	142.9	4.0	92	50	42	84	24	21
98.3 ± 0.49	- 1 2	130.3 ± 0.97	3.5 ± 0.31	86 ± 3.30	49.3 ± 0.37	36.7 ± 3.14	77.3 ± 2.94	21.7 ± 1.87	89 ± 1.69
98.3 ± 0.60	1 - 3	152.9 ± 1.95	3.4 ± 0.22	94 ± 1.72	59 ± 2.63	35 ± 1.75	77 ± 2.41	22 ± 0.48	42.8 ± 14.60
100.3 ± 0.24	9 - 7	148.5 ± 1.13	4.3 ± 0.29	101 ± 1.67	62.1 ± 1.69	38.5 ± 1.33	74.4 ± 0.72	19.3 ± 0.35	42.6 ± 1.82
100.1 ± 0.45	6 1 4	145.6 ± 1.94	5.0 ± 0.18	106 ± 1.83	64.5 ± 1.55	41.5 ± 2.09	77.7 ± 1.19	19.6 ± 0.29	47.3 ± 1.07
100.5 ± 0.31	5 2 5	146.6 ± 1.43	5.3 ± 0.62	105.5 ± 2.91	60.2 ± 1.90	45.3 ± 2.85	78.3 ± 1.72	19.2 ± 0.46	46.0 ± 2.54
100.6 ± 0.68	4 - 4	143.3 ± 2.63	5.1 ± 0.25	99.5 ± 1.75	68.8 ± 1.96	68.8 ± 1.96	74.5 ± 1.68	19.3 ± 0.50	40.4 ± 7.31
99.7 ± 0.39	3 - 6	140.2 ± 0.76	5.1 ± 0.23	110.7 ± 3.40	64.7 ± 3.00	45.6 ± 2.25	81.1 ± 3.17	18.0 ± 0.64	52.7 ± 2.06
101.2 ± 0.25	11 1 3	144.6 ± 0.56	5.6 ± 0.44	100.3 ± 2.06	64.3 ± 1.10	42.7 ± 1.71	74.5 ± 1.50	18.9 ± 0.47	43.3 ± 1.78
100.4 ± 0.35	7 - 7	144.9 ± 8.51	4.7 ± 0.30	106.4 ± 1.85	63.6 ± 1.92	42.9 ± 2.16	79.7 ± 2.34	20.4 ± 0.71	54.4 ± 3.67
101.0 ± 0.35	14 - 7	139.7 ± 5.44	5.3 ± 0.47	110.3 ± 1.60	65.9 ± 2.12	44.4 ± 2.80	72.3 ± 1.67	20.1 ± 0.44	47.1 ± 2.14
100.6 ± 0.38	15 - 9	145.0 ± 8.09	5.9 ± 0.71	112.5 ± 2.01	68.6 ± 2.55	43.9 ± 3.03	76.7 ± 2.74	18.6 ± 0.74	49.6 ± 4.86
100.5 ± 0.71	3 - 3	142.5 ± 2.84	4.1	122.0 ± 4.53	72 ± 3.10	50 ± 7.63	65.1 ± 3.81	18.5 ± 0.49	35.9 ± 2.74
103.0 ± 1.43	1 - 1	137.4	3.9	122.0 ± 2.86	75 ± 2.38	47 ± 5.30	81 ± 1.43	18	44
102.3 ± 0.61	3 - -	141.8	3.7	110.0	77 ± 3.31	34 ± 2.04	75 ± 51.7	21.3	36.8
102.3 ± 0.8	2 - 1	135.0	4.8	117.0	81	37 ± 2.87	88 ± 2.96	23	33.8
	84 5 63								

(±)ハ兩者等シキモノ

大なる體力が要求される關係上、強き持久力に附物なる胸廓の大なる者がスポーツ型として、淘汰的に參加するものなると共に、水泳の永年に亘る修練が胸廓に及ぼす影響の大なることを物語るものと信ずるなり。

- 一、水泳選手の比指極は通常人に比して概して大なるが如し。
- 一、水泳選手の血壓は概して比較的低し。
- 一、今回の出場者の身體検査に於て、案外に感じたるは、呼吸數、脈搏數の比較的多きこと及び呼

第二表 競泳出場者の泳法別胸幅・胸厚・指数及び指極と身長との関係

年 齢	平 泳					自 由 形					日 本 泳 法				
	員 数	胸 幅・胸 厚 指 数	指 極 ト 身 長 トノ 差			員 数	胸 幅・胸 厚 指 数	指 極 ト 身 長 トノ 差			員 数	胸 幅・胸 厚 指 数	指 極 ト 身 長 トノ 差		
			(+)	(±)	(-)			(+)	(±)	(-)			(+)	(±)	(-)
11—12	1	142.9	—	—	1	—	—	—	—	1	142.9	—	—	1	
12—13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	130.3 ± 0.95	—	1	2	
13—14	2	150.7 ± 3.50	—	—	2	—	—	—	—	4	152.9 ± 1.95	1	—	3	
14—15	3	151.2 ± 2.20	2	—	1	4	143.5 ± 0.48	3	—	1	9	149.7 ± 1.51	4	—	5
15—16	4	147.6 ± 3.74	2	—	2	8	146.5 ± 0.24	5	1	2	3	143.7 ± 4.02	1	—	2
16—17	3	151.7 ± 3.46	2	—	1	9	143.2 ± 1.25	4	1	4	1	151.4	1	—	—
17—18	4	146.7 ± 3.21	2	—	2	5	142.0 ± 1.68	1	—	4	1	130.8	1	—	—
18—19	2	138.4 ± 1.60	2	—	—	7	140.7 ± 9.87	1	—	6	—	—	—	—	—
19—20	5	148.4 ± 1.24	4	—	1	11	143.3 ± 2.30	7	1	3	1	143.2	1	—	—
20—22	5	147.8 ± 1.92	3	—	2	7	140.9 ± 3.52	3	—	4	3	147.8 ± 4.25	2	—	1
22—25	10	142.8 ± 1.42	7	—	3	11	138.2 ± 12.25	7	—	4	—	—	—	—	—
25—30	10	149.6 ± 3.02	5	—	5	11	143.1 ± 4.42	5	—	6	5	141.7 ± 5.93	4	—	1
30—35	2	144.8 ± 2.86	2	—	—	4	141.8 ± 1.75	1	—	3	—	—	—	—	—
36—40	1	148.7	—	—	1	—	—	—	—	—	1	130.0	1	—	—
40—45	1	134.2	1	—	—	—	—	—	—	—	2	142.6 ± 2.01	2	—	—
45—47	2	136.4 ± 1.48	1	—	1	—	—	—	—	—	2	130.4 ± 1.38	1	—	1
計	55		33	—	22	77		37	3	37	36		19	1	16

吸縮張差、呼吸停止時間の比較的少きことにして、發育可良なる體格に、反するかの觀あり。之は検査當日選手の精神の特に興奮せし爲と、引き續いて開催せられたる打合會時刻接迫せる爲の選手一同氣忙はしかりし爲もあらんかと思考せらる。

- 一、泳法別就中平泳及び自由形に依りて、選手の胸廓形狀に夫々特長あらんと考察せらる。即ち前者は胸幅・胸厚指數（稻玉）の値大にして、其の胸廓左右徑の發育が胸廓前後徑の夫れに比して比較的可良なることを知り、後者は該指數の値小にして、前者と反對に胸廓前後徑の發育が左右徑の夫れに比して比較的可良なるものゝ如し。

此の事實は、本調査者の一人なる稻玉が、嘗て數年來、男子中等學校及び大學選手等に就て調査研究せし此種の成績と一致するものにして、此所に於ても、上肢の習慣的の動作によりて胸廓形狀に影響を及ぼすこと大なるものあることを記し、彼のミュルレル氏の「習性が形態を左右する」てう法則を事實上に認めしむるものならん。此の事は、異常胸廓者に對する矯正法に應用上參考となるべし。

- 一、水泳選手の泳法に依りて、指極の發育に差異を見るものゝ如し。即ち平泳選手の比指極は概して大にして、指極の身長に勝るもの多數なり。而して自由形選手に在りては、特に然るを見ず。

茲に、水泳選手の比指極の比較的大なる所以は、胸廓は左右徑の發育に關係すること大なるが如く思考せらるゝものなり。之に就ては尙ほ今後の研究に俟つべきものなり。

- 一、長距離競泳の肉體的方面に及ぼす影響は、若年者には比較的高度なるを見たり。之は身體の充實不十分なるを證するものならん。然るに心臟に對する影響は寧ろ壯年者に比して、低度なるが如し。之は稻玉の嘗て心臟をレントゲン線的に研究せし成績に於て、身心比數（稻玉）が男子中等學校生徒に在りては、十五歳者に於て其の數値最大なること、即ち生理的に此年齢者の心臟は其の身體に對して比較的大なること、及びベネケ氏の屍體につきての研究による春機發動期の心臟の比容が一生涯に於て最大なること等の所以に依るものならん。

- 一、長距離競泳の肉體並に心臟等に及ぼす影響は泳法に依りて差異あるが如し。即ち自由形に於て比較的軽く、平泳に於て比較的軽く、日本泳法

其の中間に位するを見たり。

- 一、團體長距離競泳の肉體並に心臟等に及ぼす影響を着順別に之を調査するに、最先及び最後の泳團に於て共に最も重く、中間の泳團に於て比較的輕きを見たり。

- 一、團體長距離競泳に於ける泳法就中自由形並に平泳の兩者に就きて、其の適・不適を斷ずることは、未だ之を爲し得ざるも、身體及び心臟に及ぼす影響は、自由形に於て比較的軽く、平泳に於て比較的輕きことは事實ならんと考へらる。

（此項文責稻玉）

## 第八 結 辭

以上の諸記録を通覽して見ると、吾々委員數名が分擔執筆した爲め、記事が重複して見難い個所が澤山あるが寛恕され度い。

本論文は少なく共猶數回の同種競技會を経験し調査しなければ完成しない未定稿である事は前にもお斷はりした通りである。そこで今後に残る問題は澤山あるが、その中から二三の項目につき摘記して見ると

第一に遠泳競技に於ける途中給食問題である。

海上救護員は途中棄權泳者の多くは激烈なる空腹感になやみ疲勞一層甚だしき爲めなりと觀察して居る。當日は競技會としては異常な天候で、出發時間が遅れたのと、船酔の爲め朝食を攝る事が出来なかつたのに起因して居るから全く特別な状態であつた。近來日本泳法に於ける普通遠泳(競技にあらず)に於ては途中給食しないそうである。また給食は反つて有害だそうであるが、著者等の一人金子氏が前年房州に於て普通遠泳に於ける泳者の體力検査をした結果によると、遠泳による體力消耗の度は百米競泳に於る消耗の度より一般的に見て輕い結果を實驗發表して居る。之に反して今度の競泳の體力消耗度は非常に大きい。そこで陸上マラソンに於けるが如き途中給食をして見てはどうだろうと言ふ問題が起きて來るのである。一例すれば、消化の必要なく直ちに吸収される葡萄糖水、飴湯或は「ビタミンB」等を與へて見たら體力の消耗を少なくし、競泳成績をよくしはしないかと言ふのである。これは今後給食の有無によつて成績を比較して見れば醫學的には解決し得る問題であるが、敵前上陸の感激を以て本競技を施行せよとの説に對しては醫學的には論外である。

第二に視力障害の問題である。

檢診の結果、角膜の實質性濁濁が證明され、海水の滲透壓の關係に原因すると結論された。吾々はこ

第三表

全泳者年齢別・泳法別競泳前後に所ける體重、脈搏數、呼吸數、

泳法別	平				泳			自			
	年齢別	員數	競泳前	競泳後	競泳前後ノ差			員數	競泳前	競泳後	
					(+)	(±)	(-)				
體 重 (kg)	18以下	10	52.4 ± 2.15	49.9 ± 2.12	0	0	10 2.5 ± 1.40	3	53.8 ± 2.27	51.3 ± 0.87	
	18   25	15	58.8 ± 1.13	56.7 ± 1.09	0	0	15 2.1 ± 0.12	13	58.95 ± 0.98	56.6 ± 0.29	
	25 以 上	4	57.8 ± 0.65	55.8 ± 0.44	0	0	4 1.8 ± 0.33	2	59.8 ± 0.37	57.0 ± 0	
	計	29	56.3 ± 1.31	54.1 ± 1.21	0	0	29 2.1 ± 0.62	18	57.5 ± 1.20	55.0 ± 0.58	
脈 搏	18 以 下	11	79.1 ± 2.63	86.3 ± 2.22	7 13.7 ± 1.90	2	2 8.5 ± 1.19	3	68.7 ± 1.39	83.3 ± 2.29	
	18   25	15	27.9 ± 1.19	78.1 ± 1.86	10 10.2 ± 0.90	1	4 8.5 ± 1.61	13	76.6 ± 2.23	81.8 ± 3.02	
	25 以 上	4	77.3 ± 2.90	74.3 ± 1.73	2 2.0 ± 0.48	1	1 24.0	2	64.5 ± 2.14	75.0 ± 0	
	計	30	76.4 ± 2.24	79.6 ± 1.93	19 8.63 ± 1.09	4	7 13.7 ± 1.40	18	69.9 ± 1.92	80.0 ± 2.65	
呼 吸	18 以 下	11	19.5 ± 0.49	23.1 ± 0.91	8 5.4 ± 0.78	1	2 2.0 ± 0	3	2.20 ± 0.32	22.3 ± 0.61	
	18   25	15	19.6 ± 0.41	23.7 ± 0.82	12 6.3 ± 0.76	1	2 5.5 ± 0.25	11	20.1 ± 1.74	25.9 ± 1.24	
	25 以 上	3	18.5 ± 0.88	25.3 ± 2.17	2 10.0 ± 0.95	0	1 1.0	2	20.0 ± 0	20.5 ± 0.24	
	計	29	19.2 ± 0.59	24.0 ± 1.84	22 7.2 ± 0.83	2	5 2.8 ± 0.25	16	20.7 ± 1.08	22.9 ± 0.70	
血	最 高	18 以 下	11	97.5 ± 1.97	116.4 ± 0.31	11 20.4 ± 2.40	0	0	3	96.7 ± 0.96	113.3 ± 4.86
		18   25	15	109.6 ± 1.97	114.0 ± 2.40	9 14.4 ± 2.05	0	6 14.8 ± 2.73	13	114.4 ± 1.39	120.4 ± 2.89
		25 以 上	4	104.5 ± 2.30	116.8 ± 3.14	3 15.7 ± 0.40	0	1 2.0	2	117.0 ± 0.48	125.0 ± 3.34
		計	30	104.0 ± 2.08	115.7 ± 1.95	23 16.8 ± 1.61	0	7 8.4 ± 2.73	18	109.36 ± 0.92	119.6 ± 3.70
		18 以 下	11	61.8 ± 1.66	74.1 ± 0.23	11 14.6 ± 1.25	0	0	3	66.0 ± 3.31	64.3 ± 6.69

最高・最低血圧脈圧及び尿の變化

由 形			日 本 泳 法					
競 泳 前 後 ノ 差			員 數	競 泳 前	競 泳 後	競 泳 前 後 ノ 差		
(+)	(±)	(-)				(+)	(±)	(-)
0	0	3 2.60 ± 1.73	9	43.8 ± 0.45	41.9 ± 1.89	0	0	9 2.1 ± 2.33
0	0	13 2.2 ± 1.18	5	52.8 ± 1.73	51.1 ± 1.74	0	1	4 1.9 ± 1.430
0	0	2 2.8 ± 0.26	3	57.3 ± 1.84	55.0 ± 1.18	0	0	3 2.3 ± 1.18
0	0	18 3.5 ± 1.06	17	51.3 ± 1.34	49.3 ± 1.60	0	1	16 2.1 ± 1.65
2 27.0 ± 4.29	0	1 1.0	10	74.9 ± 1.00	90 ± 1.57	10 15.1 ± 1.43	0	0
6 17.2 ± 1.91	3	4 9.0 ± 2.56	5	84.0 ± 3.97	74.2 ± 3.36	0	1	4 14.5 ± 2.88
2 10.5 ± 2.14	0	0	3	71.0 ± 2.76	68.0 ± 2.94	0	0	3 2.33 ± 1.48
10 18.2 ± 2.78	3	5 5.0 ± 2.56	18	76.6 ± 2.57	77.4 ± 2.62	10 15.1 ± 3.34	1	7 84.2 ± 1.45
1 3.0	2	0	10	19.7 ± 0.42	26.8 ± 1.11	10 6.9 ± 1.41	0	0
8 7.75 ± 1.03	2	1 2.0	5	21.8 ± 0.67	21.6 ± 0.53	1 7.0	1	3 2.7 ± 1.84
0	1	1 1.0	2	18.3 ± 0.67	22.0 ± 0.78	1 7.0	0	1 1.0
9 5.4 ± 1.03	5	2 1.5	17	19.3 ± 0.59	23.5 ± 0.81	12 6.97 ± 1.41	1	4 1.85 ± 1.84
3 16.7 ± 6.49	0	0	10	95.2 ± 1.12	113 ± 1.65	9 19.8 ± 2.90	1	0
8 18.0 ± 3.07	0	5 13.2 ± 2.18	5	105.6 ± 3.01	118.0 ± 0.50	3 22.0 ± 3.01	0	2 2.0 ± 0
1 16.0	1	0	3	99.3 ± 0.35	106.7 ± 8.00	2 20.0 ± 4.77	0	1 18.0
12 18.7 ± 3.19	1	5 13.2 ± 2.18	18	100. ± 1.49	112.6 ± 3.38	14 20.6 ± 3.56	1	3 10.0 ± 0.67
1 18.0	0	2 11.5 ± 1.67	10	60.6 ± 1.78	74.5 ± 3.08	9 16.6 ± 2.03	0	1 8.0



壓 (mmHg)	最	18   25	15	63.7 ± 1.63	71.8 ± 1.78	10 15.2 ± 1.55	1	4 10.8 ± 2.52	13	65.3 ± 0.86	78.7 ± 2.47
	低	25 以 上	4	73.0 ± 0.39	80.5 ± 3.16	3 10.0 ± 1.91	1	0	2	75.0 ± 2.39	92.0 ± 0.95
		計	30	66.2 ± 1.23	75.5 ± 1.73	24 13.3 ± 1.57	2	4 10.8 ± 2.52	18	68.8 ± 2.19	78.3 ± 3.37
脈 (mmHg)	脈	18 以 下	11	35.6 ± 1.95	42.6 ± 2.23	7 12.6 ± 2.14	1	3 3.7 ± 0.65	3	30.7 ± 2.24	49.0 ± 2.52
		18   25	15	45.1 ± 1.32	42.2 ± 1.45	6 7.5 ± 2.97	1	8 12.3 ± 0.99	13	50.6 ± 2.06	35.5 ± 2.59
	壓	25 以 上	4	31.5 ± 3.35	36.3 ± 4.59	2 11.5 ± 1.19	0	2 2.0 ± 0	2	42.0 ± 2.86	33.0 ± 2.39
		計	30	37.4 ± 2.21	40.4 ± 2.76	15 10.53 ± 2.10	2	13 6.0 ± 0.82	18	41.1 ± 2.39	39.2 ± 2.50
尿 (蛋白尿)	尿 (蛋白尿)	18 以 下	11	—	1	—	—	—	3	—	—
		18   25	15	—	2	—	—	—	13	—	2
		25 以 上	4	—	—	—	—	—	2	—	1
		計	30	—	3	—	—	—	18	—	3

第四表 全泳團體着順別競泳前後に於ける體重、脈搏數、

泳團別 (泳法別)	第一着 (所要時間 3時23分4秒) 佐 ○ 保 ○ (自由形)						第二着 横 ○ (平)			
	員 數	競泳前	競泳後	競泳前後ノ差			員 數	競泳前	競泳後	
				(+)	(±)	(-)				
體 重 (kg)	4	59.9 ± 0.77 (62.4—56.2)	57.3 ± 1.00 (59.0—55.0)	—	—	4 2.7 ± 0.50 (4.4—1.2)	4	64.2 ± 0.90 (64.8—60.8)	61.2 ± 0.84 (65.0—58.0)	
脈 搏	4	74.3 ± 3.15 (90.0—66.0)	83.3 ± 5.78 (105.—60)	3 14 ± 2.40 (21—6)	—	1 6.0	4	77.0 ± 3.39 (88—66)	87.3 ± 3.01 (94—72)	
呼 吸	4 (2)	18.8 ± 0.87 (22—15)	19.0 ± 0.48 (20—18)	—	2 0	—	4	14.0 ± 16.2 (21—17)	23.3 ± 0.65 (26—21)	
血	最 高	4	114.0 ± 0.83 (116—110)	137.5 ± 0.87 (150—130)	4 24.0 ± 3.04 (36—14)	—	—	4	103.0 ± 4.06 (116—90)	125.0 ± 4.30 (140—110)

9 24.1 ± 4.27	0	4 8.25 ± 1.64	5	64.5 ± 1.32	77.2 ± 3.12	4 16.8 ± 2.19	0	1 5.0
2 17.0 ± 0.75	0	0	3	60.0 ± 0	67.0 ± 2.60	2 10.5 ± 1.08	1	0
12 19.7 ± 1.67	0	6 6.58 ± 1.66	18	61.7 ± 1.55	71.2 ± 2.93	15 14.6 ± 1.74	1	2 6.5 ± 0.72
3 18.3 ± 1.02	0	0	10	34.6 ± 1.28	37.5 ± 1.66	6 10.5 ± 0.95	0	4 8.5 ± 1.61
3 3.0 ± 0.81	1	9 12.8 ± 2.16	5	40.8 ± 0.39	40.8 ± 3.42	2 13.0 ± 1.43	1	2 13.0 ± 3.34
2 11.0 ± 4.29	0	0	3	39.3 ± 0.37	43.0 ± 3.86	2 9.5 ± 2.15	0	1 8.0
8 10.8 ± 2.04	1	9 12.8 ± 2.16	18	38.2 ± 0.68	40.4 ± 2.98	10 11.0 ± 1.51	1	7 983 ± 2.474
—	—	—	10	—	—	—	—	—
—	—	—	5	—	—	—	—	—
—	—	—	3	—	—	—	—	—
—	—	—	18	—	—	—	—	—

呼吸数、最高・最低血圧、脈圧及び尿の變化

(所要時間 3時47分15秒) 賀 ○ 泳)			第三着 (所要時間 4時11分22秒) 横 ○ (平 泳)					
競泳前後ノ差			員 數	競泳前	競泳後	競泳前後ノ差		
(+)	(±)	(-)				(+)	(±)	(-)
—	—	4 2.4 ± 0.23 (2.8-1.2)	4	62.4 ± 0.75 (66.2-60.7)	60.1 ± 0.63 (63.5-59.0)	—	—	4 2.30 ± 1.67 (2.8-1.7)
4 7.8 ± 0.90 (12-5)	—	—	4	72.8 ± 1.50 (78-66)	79.0 ± 3.49 (92-64)	3 9.8 ± 3.87 (26-4)	—	1 14.0
4 4.8 ± 1.0 (7-3)	—	—	4	20.0 ± 0.58 (21-17)	24.0 ± 0.76 (36-16)	3 8.7 ± 2.39 (15-1)	—	1 5.0
4 22.0 ± 3.61 (48-1)	—	—	4	114.0 ± 2.78 (120-116)	60.2 ± 2.08 (63.5-59)	2 13.5 ± 4.05 (22-5)	—	2 15.5 ± 4.09 (26-5)

壓 (mmHg)	最低	4	62.5 ± 7.68 (80—50)	97.5 ± 5.89 (122—78)	4 35.0 ± 2.35 (72—14)	—	—	4	63.5 ± 2.04 (72—56)	76.8 ± 1.51 (85—70)
脈 壓 (mmHg)		4	51.8 ± 4.59 (66—36)	40.0 ± 2.90 (52—28)	2 2.0 ± 0 (2.—2.)	—	2 25.0 ± 5.25 (36—14)	4	39.5 ± 2.34 (50—32)	48.3 ± 3.17 (62—36)
尿 (蛋白尿)		4	—	—	—	—	—	4	—	1
泳 團 別 (泳法別)	第 四 着 (所要時間 ) 横 ○ 賀 ○ (平 泳)							第 五 着 横 ○ (自		
		員 數	競 泳 前	競 泳 後	競 泳 前 後 ノ 差			員 數	競 泳 前	競 泳 後
					(+)	(±)	(-)			
體 重 (kg)		4	57.8 ± 0.99 (62.8—55.8)	55.6 ± 0.87 (60.0—53.5)	—	—	4 2.1 ± 2.27 (2.8—0.8)	4	60.6 ± 1.04 ( )	58.6 ± 1.03 (63.5—55.0)
脈 搏		4	74.5 ± 1.84 (78—68)	72.3 ± 1.55 (79—66)	1 1.0	1 0	2 4.0 ± 0.95 (6—2)	4	76.0 ± 4.22 (90—62)	76.0 ± 15.2 (90—58)
呼 吸		4	16.8 ± 0.60 (19—15)	23.8 ± 1.08 (27—18)	3 9.3 ± 0.74 (12—8)	1 0	—	4	21.3 ± 0.59 (24—19)	28.5 ± 0.88 (30—24)
血	最 高	4	108.0 ± 2.48 (116—96)	113.3 ± 3.10 (126—104)	3 9.0 ± 2.23 (16—2)	—	1 6.0	4	118.0 ± 1.35 (122—114)	108.5 ± 0.91 (118—100)
壓 (mmHg)	最 低	4	65.5 ± 1.87 (72—60)	76.5 ± 2.00 (86—70)	3 14.7 ± 3.33 (16—14)	1 0	—	4	67.5 ± 1.93 (74—60)	67.5 ± 4.97 (84—45)
脈 壓 (mmHg)		4	42.5 ± 3.89 (56—26)	36.8 ± 2.01 (44—28)	2 5.5 ± 1.67 (9—2)	—	2 17.0 ± 2.21 (22—12)	4	50.5 ± 2.26 (58—40)	40.8 ± 3.05 (55—32)
尿 (蛋白尿)		4	—	1	—	—	—	4	—	1

れで正しい解決がついたと思つて居るが猶今後の機会に、もつとくわしい検査を実施して、その結果を総合すれば、學問的良心的だと思ふ。若し今後の研究により反對論が出るとすれば、太陽の強光線による紫外線の影響、或は「ビタミンA」の急性缺乏等の想像されるが、陸上競技に於ても同様の現象があるか否かを検討すれば、自ら強度の含鹽量を有する海水に想到するのであらう。

第三は海洋長距離競泳に於ける自由型泳法と日本泳法(平泳を含む)との長短である。

皆泳六泳團に就てその泳法を調査すると、自由型三組一第一着、五着、六着、平泳三組一第二着、三着、四着、であつて、本競技に於て自由型組が平泳組をおさへて優勝した事に異論はないが、茲では醫學的要素を加味してその長短を考慮して見度いのである。

醫學的検査の結果を見ると、身體及心臟に及ぼした影響は、自由型に強度で、平泳型に軽度であつた。これを泳團別に言ふと、最も身心に大きな消耗を來したのは第一着自由型組で、第六着自由型組、第五

3 18.3 ± 1.71 (19-18)	—	1 2.0	4	65.5 ± 1.20 (70-60)	67.3 ± 1.09 (76-50)	3 7.7 ± 2.30 (16-3)	—	1 9.0
3 11.7 ± 5.05 (30-2)	1 0	—	4	48.5 ± 1.83 (54-40)	45.8 ± 1.44 (52-40)	3 6.7 ± 1.32 (10-2)	—	1 9.0
—	—	—	4	—	—	—	—	—
(所要時間 ○ 賀 由 形)			第 六 着 (所要時間 熱 ○ 日 ○ 會 (自 由 形)					
競 泳 前 後 ノ 差			員 數	競 泳 前	競 泳 後	競 泳 前 後 ノ 差		
(+)	(±)	(-)				(+)	(±)	(-)
—	—	4 2.0 ± 0.37 (2.3-1.6)	4	56.5 ± 2.84 (61.6-47.3)	54.0 ± 5.39 (59.0-45.0)	—	—	4 2.5 ± 0.72 (2.8-2.3)
1 28.0	1 0	2 14.0 ± 3.82 (22-6)	4	65.5 ± 1.61 (72-60)	68.3 ± 2.16 (75-58)	2 10.5 ± 3.06 (15-6)	1 0	1 10.0
3 9.7 ± 8.53 (11-9)	1 0	—	4	20.0 ± 0.48 (22-18)	20.3 ± 0.50 (22-18)	3 6.0 ± 2.75 (16-1)	1 0	—
1 2.0	—	3 13.3 ± 2.87 (22-4)	4	115.0 ± 10.92 (126-98)	111.5 ± 4.46 (130-98)	2 3.0 ± 1.41 (4-2)	1 0	1 2.0
2 11.0 ± 0.48 (12-10)	—	2 10.5 ± 2.15 (15-6)	4	68.0 ± 0.50 (72-60)	66.3 ± 5.51 (90-45)	1 2.0	—	3 9.0 ± 2.09 (15-2)
1 1.0	—	3 13.3 ± 1.47 (16-8)	4	47.0 ± 1.93 (54-38)	45.3 ± 0.43 (60-28)	2 11.5 ± 2.62 (17-6)	—	2 15.0 ± 2.39 (20-10)
—	—	—	4	—	2	—	—	—

着自由型組之に續いて居る。最も影響の少なかつたのは、第二着平泳組で、第三着平泳組と第四着平泳組がこれに次いで居る。この結果丈けで見ると平泳組が斷然優秀であるが、一面吾々は次の事實をも考へなければならぬ。第一着泳團は全力を傾注しつゝした爲め強度の體力消耗を來し、第六着泳團は初めから泳力弱く、長時間惡戰苦闘した結果であると言へるし、又第二着泳團は經濟的速力を以て泳破し、最も「ガソリン」を節約したのだとも言ひ得る。

故に吾々は此の僅少な例のみで、醫學的に優劣を斷定する勇氣を持たないが、今後の研究に對する指針丈けは得た事を喜ぶものである。即ち本問題は今後「單なる海洋泳破」—遠泳—と「海洋泳破競技」即ち速力を主とするものと分けてその各々の特徴を研究して見るのが合理的であると思ふのである。

純醫學的報告は今後の分と合せて別に學界に報告する時があらうと思ふ。(此項文責齋藤)

# 水球用ボールに就て

日本水上競技聯盟 笹島彦次郎

一般運動競技中水泳が一番に此の非常時局の影響を被らぬとされて居る、即ち『一本の禪と水さへあれば』と云はれる故である。が、水上競技の一部門たる水球に於ては、他の球技同様、皮革とゴムに深い因縁があるのであり、飛込競技も特別の設備を要するものではあるが、それは、水球のゴールその他の施設と同様なものでボールの様に消耗品ではない。

元來、水球用ボールが現在の如く、伯林大會に於て、吾が國產品の優秀なることを示し、大に鼻を高くしたわけであるが、斯る良いものが豊富に出来る様になつたのは實に最近のことで、水球競技の漸く盛大に赴かんとした頃、即ち昭和の初め又はそれ以前大正年代にあつては、實に、ボール一個の入手に一方ならぬ苦心を拂つたものである。或デパートでは年に二個丈しか取つて呉れず、或は苦肉の策として外交官の土産として入手したものである、一個卅五圓也と聞いて咽喉から出る手を出したり引き込めたり躊躇らつたものであつた、それが次第々々に國産の試作時代を経て本格的製造の軌道に乗つて未だ、何年も経過して居らぬに既に所謂先進國を見返す程のものが出来る様になつた事を喜び且つ關係者に敬意を表するものである。

扱而翻つて考へるに、一體水球の起原と云ふ程大袈裟に考へずとも、プールに於て屢々見る所であるが、例へば、ボールを浮かして置きさえすれば、一寸でも體の浮くものは必ず、ボールに向ひ、持ち、投げんと試みるものである、それが技術の進むにつれ、次第に水球の技術に移つて來るのである。

換言すれば、ボールの有る所即ち水球を生むと云へるわけである。併してこれが反對の場合は、どうなるであらうか、考へた丈でもぞつとする程困つたことである。で、國策である以上些かの不平不足は云はないが、それなれば國策にも反せず、本競技の運行に不自由のない方策は全然ないかと云ふに、絶無ではない。即ち、此所で流行語ではあるが代用品問題を取り上げる次第である。

未だに外國ボールに頼つて居た時代にも吾々はズツク製のボールを使用した経験がある。比較的乾いて居る時は大體によかつたが、短時間に水が浸透してズツシリと重くなり且つ表面がヌラヌラになり困難を感じたものであつた。その後代用品はなかつたが昨年來益々時局の推移と共に代用品を考慮し矢張りズツク製品を試作試用したのであるが、前記の難點は同様さして改良はされては居らなかつた。最近聞く所によれば鮫皮のものを使用して見た向もある由ではあるが、未だ詳細な成績の報告を聞く迄には至つて居らない。勿論これは外側の皮革についてのみの問題であつて内側のチューブに関しては未だ代用品に就て好個のものを知らない次第である。

吾が水上競技聯盟としても、それぞれの機關を通じて、少くとも此の體位向上更生に利ある水球競技の普及發達に差し支えなき程度の數量の皮革並びにゴムの配給を受くべく努力して居る次第であり、且一方現在各團體の所持するものに就ては、本聯盟より各加盟團體並びに各學校に對して、より慎重に より大切に使用され度き旨を通報し、所謂自肅の態度を取つて居るものである。

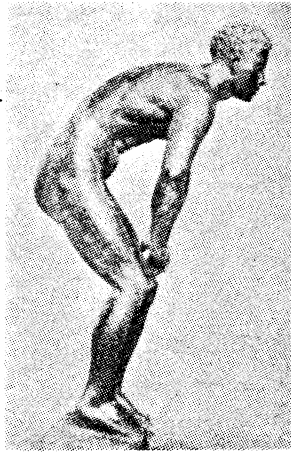
關係各位の努力により簡易規則も出來、水球讀本も發行され且つこれからは普及にと意氣込んで居た折も折とて、萬全の策を取つて出かけた芽を枯らさぬ様に努力する考へで居る。

尙簡易規則に就てであるが、使用すべきボール即ち玩具商にある普通のゴムマリであるが、既にストツクの傷物を修理して販賣して居る始末の由で、此れも何等かの考慮を要する問題である。

以上述べた通り水球用ボールの代用品は現在の所完全なものはないのである以上、皮革及ゴムチューブの配給を受けるべく努力すると共に、より一層現在手元にあるボールの保存を計り、且つ代用品の出現に研究を要する現状にある。

關係者各位におかれても斯る狀況について御一考の上御協力あらんことを願ふものである。

(五・三〇)



## 小山賢之助

### ☆林忠雄氏の論文一等に當選す

英國の水泳雑誌「スキミング・タイムズ」が一九三八年度の懸賞論文として「クロールストロークの泳ぎ方」の題名の下に廣く讀者から研究論文を募集したが數ある應募者中から一等當選の榮譽を獲得したのは現在英國ブルンマウスに在住する本聯盟評議員林忠雄氏であつた。氏の論文は日本式クロールを基礎としたる白色人種の體格を考慮して編み出されたもので簡潔にして然かも肯綮に中つた立派なものであるが主として初歩向きに書かれてあるので残念ながら紙面の都合上記述を割愛するが氏の水泳に對する眞摯なる研究が今後益々深められん事を祈ると共に氏の變らざる熱心に對して遙かに敬意を表する次第である。

### ☆獨逸冬季三傑表

友邦獨逸に於ては昨年より本年にかけての冬季室内各競技大會の結果を綜合して冬季三傑表を四月十九日「シュキムマー」誌上に發表した。國家的な獎勵の下に大々的に行はれただけあつてその結果には注目すべき好記録が多數に存在する。就中ヨアヒム・バルケの二分三十七秒四は歐洲新記録であつて、ケズレーの世界記録に劣ること僅かに〇・二秒、然かもケズレーの記録はニューハーフエンの二十五碼プールにて作られたるに對し、バルケのそれはプレーメンの二十五米プールで作られたものであるから、ターニングが一つ少く、我が葉室の長水路記録二分四十秒四と共に世界平泳界の最高峯をなすものである。

### 男子 (プールは何れも二十五米)

<b>百米自由形</b>	1. フィシャー	59.2
	2. エツケンブレハー	59.9
	3. シュルリツケ	60.2
<b>二百米自由形</b>	1. プラート	2:15.6
	2. ラスコフスキー	2:15.8
	3. フィシャー	2:16.2
<b>四百米自由形</b>	1. プラート	4:47.6
	2. ケーニンガー	4:55.8
	3. フレーゼ	4:57.3
<b>百米平泳</b>	1. バルケ	1:09.5
	2. ラスコフスキー	1:09.7
	3. オールドルフ	1:10.7
<b>二百米平泳</b>	1. バルケ	2:37.4
	2. ハイナ	2:39.3
	3. オールドルフ	2:40.3

<b>百米背泳</b>	1. シュラウハ	1:08.8
	2. リュスケ	1:10.2
	3. ルンドムント	1:10.8
	3. シュレーダー	1:10.8

<b>二百米繼泳</b>	1. シュレックシュタイン・チーム	1:52.4
--------------	-------------------	--------

<b>八百米繼泳</b>	1. ブレーメン・チーム	9:24-5
--------------	--------------	--------

<b>三百米混繼泳</b>	1. マグデブルグ・チーム	3:31-1
---------------	---------------	--------

### 女子

<b>百米自由形</b>	1. ポラツク	1:07.5
--------------	---------	--------

	2. シュミツツ	1:08.4
--	----------	--------

	3. アーレント	1:08.9
--	----------	--------

<b>四百米自由形</b>	1. グロート	5:44.7
---------------	---------	--------

	2. ハルプスグート	5:45.0
--	------------	--------

	3. シュミツツ	5:47.0
--	----------	--------

<b>百米平泳</b>	1. ヴォルシュレーガー	1:25.3
-------------	--------------	--------

	2. ヘルツナー	1:26.3
--	----------	--------

	3. グラウトホフ	1:28.5
--	-----------	--------

<b>二百米平泳</b>	1. ヴォールシュレーガー	3:01.7
--------------	---------------	--------

	2. ピーハイダ	3:02.0
--	----------	--------

	3. ブツシエ	3:04.1
--	---------	--------

<b>百米背泳</b>	1. ヴエーバー	1:18.9
-------------	----------	--------

	2. ケラーマン	1:19.5
--	----------	--------

	3. シュミツツ	1:20.4
--	----------	--------

	3. ポラツク	1:20.4
--	---------	--------

### ☆フェーガー嬢二百二十碼に新記録を作る

本年一月一日に於て女子世界記録十六種目中十三種目の世界記録を保持する丁抹水泳界の至寶フェーガー嬢は去る三月アーフスの二十五米プールに於て百碼を五十八秒七で泳破し和蘭のデン・オウデン嬢の保持する五十九秒八を破つて更に一種目を征服し又五百米に於ける自己の保持する世界記録六分三十九秒一を六分三四秒三に更新して他の追隨を許さず自由形全種目の記録保持者たるべく不斷の努力を續けつつあつたが去る四月二十三日コペンハーゲンの二十五米プール(競技當日は碼制に改装)に於て二百二十碼を二分二十二秒六で泳破しデン・オウデン嬢の二分二十七秒六を遙かに凌駕して、十六種目中十五種目の記録保持者となつた。嬢は目下最後の種目たる百米自由形一分四秒六(デン・オウデン)を破るべく練習中であるが、五月十四日コペンハーゲンの室内プール(二十五米)に於て一分五秒一を記録し、十六種目完全制覇近きを思はしめた。尙最近の情報によれば嬢はゼーレン

ゼン嬢を破るべく平泳を練習を始めた想である。

### ☆歐洲女子平泳界に新人現はる

現在歐洲女子平泳界の第一人者たる丁奪のゼーレンゼン嬢を脅かす新人が現はれた。白耳義のイボンヌ・ヴァン・デ・ケルヒホーフエ嬢即ち之である。嬢は去る二月オステンドの二十五米プールに於て五百米平泳に八分一秒六を記録し、(途中200, 3:06-2 400, 6:23-4) ゼーレンゼン嬢の世界記録八分一秒九を破つた、之に奮起したゼーレンゼン嬢は三月、コペンハーゲン二十五米プールに於て力泳又力泳遂に同種目に七分五十八秒八の好記録を出して美事王座を奪還した。

越えて四月九日復活節を期してケルヒホーフエ嬢は丁抹に旅してオデンゼに於て二百米、スエーデンボルクに於て四百米と二度戦つたが武運拙く敗退しゼーレンゼン嬢は王座を死守した。當時の記録左の如し

<b>四百米平泳</b>	1. ゼーレンゼン	6:20-2
	2. ケルヒホーフエ	6:25-4
<b>二百米平泳</b>	1. ゼーレンゼン	3:02-7
	2. ケルヒホーフエ	3:02-8

破れたりとはいへケルヒホーフエ嬢の健闘は注目に値する

### ☆エール大學プリントン大學を破る

エール大學對プリントン大學對抗水泳大會は去る三月エール大學プールで行はれ、四十二對三十二のスコアを以つてエール大學が快勝した。當日プリントン大學のリチャード・ハウは二百碼平泳に二分二十二秒二の記録を以つて優勝しケズレーの保持する世界記録二分二十二秒五を破つた。

### ☆ハウ百米平泳に世界新記録を作る

プリントン大學のリチャード・ハウは其後益々好調を續け、去る四月に行はれたるニューハーフエンのエール大學プールに於ける室内競泳大會に於て百米平泳の世界記録一分九秒五バルケ(獨)を破る一分七秒三の大記録を樹立した、彼は途中の百碼を六〇秒六で通過しケズレーの世界記録一分二秒七を破つたのであつたが、FINAの規定はタッチに依る記録のみを認めるのであるから右の百碼通過記録は單に米國記録たるに止り世界記録としては公認せられないだらう。

### ☆四〇〇碼繼泳に世界新記録

去る四月シカゴに於て行はれたる室内競泳大會に於て紐育水泳俱樂部は四百碼繼泳に三分三十一秒〇の世界新記録を作つた、從來の記録はミシガン大學の三分三十一秒四であつた、新記録のラップは左の通りである。

デルモット	五四秒五
レイリー	五三秒二
スペンス	五二秒二
ピーターフィック	五一秒一

右の中フィックの五一秒一は百碼の世界記録五一秒〇(ワイズミューラー)に肉迫する好記録である。

### ☆ハイナ五百米平泳に世界記録を破る

四百米平泳世界記録五分四十三秒八の保持者アルツール・ハイナ(獨)は更に五百米に世界新記録を樹立すべく練習中

であつたが、五百米平泳の歐洲記録七分二十一秒四を保持するヘルマン・シュミッツファイゼン(和)は之に挑戦して、去る五月七日オーリツヒの二十五米プールに於て、五百米平泳の世界最高記録と歐洲平泳界の王座とを賭けた大レースが行はれた。戦前の豫想ではシュミッツファイゼン約七分二十秒ハイナ約七分十八秒で接戦を豫想せられたが稍ハイナ有利との事であつた。

スタートするやハイナ得意の急ピッチで好調に滑り出すに反しシュミッツファイゼン意外に不調で一ストローク毎に水をあけられ徒らにハイナに名を成さしめた。かくてハイナは百米を一分十八秒六、二百米を二分四十六秒八、三百米を四分十六秒〇のラップタイムを録しつつ力泳した。此日不調のシュミッツファイゼンは三百米にして既に十五米離され闘志を失つて棄權のやむなきに至つたが、ハイナは益好調にスパートを續け四百米の正式計時に五分四十四秒六を記録し遂に五百米に七分十三秒〇といふ世界新記録を作つた。此の記録は一九三七年二月二十日コロンバスの二十五碼プールに於てジャックケズレー(米)の作つた七分十八秒八を五秒八破つた大記録であつて、若しこの二十五米プールの記録を二十五碼プールに換算するならば優に七分十一秒の實力を有するものと認められる。

更に驚くべきことはハイナは此記録を得た三十分直後に於て二百米平泳に二分四十一秒四を記録した事である。好調の時とは言へハイナの實力は高く評價せらるべきである。

### ☆米國エクワドル遠征チーム決定す

米國のナショナルA A Uの決定によれば六月エクワドルよりの招待に應じ派遣すべき米國水上軍は左記の通である、一行は歸途キューバ、パナマ、其他南米諸國を歴訪する豫定。

- ピーター・フィック(自由形)
- ラルフ・フラナガン( )
- 仲間清( )
- アドルフ・キイファー(背泳)
- リチャード・ハウ(平泳)
- アル・パトニック(監督)

### ☆其の他の注目すべき結果

男子百米自由形(ブタペスト 三十三米三分一プール)

エレメリ(洪) 五九秒八 五月十四日

同四百米自由形(ブレーメン 二十五米プール)

ビョルンボルグ(瑞) 四分四十七秒五 四月

女子四百米平泳(コペンハーゲン 二十五米プール)

ゼーレンゼン嬢(丁) 六分十七秒 四月

女子百米自由形

リー・バン・ビリン嬢(和) 一分六秒一

女子二百米背泳

イダ・バン・エフゲレン二分四十秒六(世界對記録)

資料 1. Swimmer, 19 Apr—17, Mai. 2. L. de B. Handley, 23. Apr—14 May. 3. SwimmingTimes Feb—Apr.





# ソ 聯 水 泳 競 技 會 の 記 録



ソ聯の首都モスクワで今春水泳競技會が開かれ世界競泳界の水準に近い次の様な好成績を示して居る。

(種目)	(時間)	(人名)
男子百米自由型	59.2	メシユコフ
男子二百米自由型	2:14.8 (新記録)	メシユコフ
男子百米平泳	1:08.3	ボアチエンコ
男子四百米平泳	5:53.0 (新記録)	レベデフ
女子百米自由型	1:10.5 (新記録)	コチュヴア
女子百米背泳	1:18.6 (新記録)	コチュヴア
女子百米平泳	1:23.4 (新記録)	ソコロヴァ

猶短距離の新人メシユコフは昨年邊りから擡頭し來りすでに昨年度の末にはレーニングラードの競技會で百米自由型に五十八秒・九の優秀な新記録を出して居り、亦一方平泳の雄ボアチエンコは昨年度に於て百米を一分六秒・九、二百米を二分三十六秒・二の世界新記録を作つて居り、其泳法は極端なるバタフライ泳法であつて一昨年ボアチエンコが巴里、アントワープに轉戦の折此泳法に就て巴里で専門委員會を開いた、其結果違法に非すと云ふ事になつた、此二つの世界記録こそ驚異に値するものである。



## 昭 和 十 四 年 度 の 卒 業 生 と 新 入 生



卒業の方々		早稻田大學水泳部	
(氏名)	(住所)	(勤先)	
牧野正藏	兵庫縣武庫郡鳴尾村小曾根字戸崎村對山寮内	日本窒素株式會社	
新聞六炳	兵庫縣加古郡高砂町奥町 酒井方	日本砂鐵株式會社	
瓶子喜己	豊島區雜司ヶ谷町五ノ六八四	明治鑛業株式會社	
永見達明	淺草區榮久町四五	中 支 振 興	
高橋死生	横濱市神奈川區栗田谷一九	電 通	
川島 弘	天津日本租界宮島街三三ノ一		
穂口重雄	大連市董町二五		

堀内文夫	横濱市鶴見區東寺尾一六三一	山口
山田秀夫	豊島區池袋三ノ一三二八佐久間方	水戸
伊丹康夫	大森區上池上町八八九	府立
平尾英二	本郷區森川町一三八 羽鳥方	五高
安川正徳	本郷區蓮菜町七 第一初音館	佐賀

新入學の方々		明治大學水泳部	
(氏名)	(住所)	(種目)	(出身校)
宮本茂	合宿所	自由形	多度津中
宇田守榮	"	"	高知商
近藤静夫	"	"	岡山二中
湊哲朗	"	"	修道中
金樹晴海	"	"	廣島一中
中野太郎	"	背 泳	膳所中
鳴宮才藏	"	"	大倉商
重山孝	"	自由形	加治木中
谷口五郎	目黒區上目黒五丁目二四二五	背 泳	廣島二中
山下末雄	"	自由形	廣島一中
山下欣一	下谷區上野櫻木町十八土田誠一方	"	濱松一中
小田明	赤坂區青山高樹町三	"	日立中
大藪禮治	芝區三田綱町一番地	平 泳	早 中
深野富男	本郷區湯島天神町一ノ四	"	早 實
久保欣治	合 宿	飛 込	第三神港
細木清己	中野區新井町二四二	背 泳	

卒業の方々		明治大學水泳部	
(氏名)	(住所)	(勤先)	
鈴木重之	横濱市中區本牧町三ノ七六四 榎方	三井物産	
寺田速雄	"	滿 鐵	
久野健	"	新愛知新聞社	
平輪憲治	青森縣上北郡天間林村上北鑛山事務所	日 本 鑛 業	
田中桂三	"	東 洋 紡 績	

新入學の方々		東京帝國大學水泳部	
(氏名)	(住所)	(出身校)	
北村久壽雄	本郷區追分町三八 西田方	三 高	
西本春男	淀橋區上落合二ノ六二八 富田方	一 高	
高見豊治	本郷區森川町一〇四 本郷館	六 高	
山藤哲三	澁谷區原宿二ノ一七〇ノ十間野方	廣 高	

新入學の方々		明治大學水泳部	
(氏名)	(住所)	(種目)	(出身校)
安達稔	淀橋區戸塚町三ノ三三三 三 東京館内	自由形	龍山中學
茂手木十四三	横須賀市深田町三二八	"	三浦中學
田中健一	淀橋區戸塚町三ノ三三三 三 東京館	"	函館商業
鮫島太洋	澁谷區千駄谷五ノ八〇 五 宮崎内	背 泳	臺北一中
榎永良三	神田區多町二丁目二横 永兼松内	自由形	尾道商業
後藤信夫	牛込區早稻田南町二	"	浮羽中學

卒業の方々		勤務先	
(氏名)	(住所)	(勤先)	
山本典彦	名古屋市中區傳馬町五ノ四	自 宅	

卒業の方々		立教大學水泳部	
(氏名)	(住所)	(勤先)	
鶴岡榮	京橋櫻組商事株式會社		
本田惣一郎	大阪東京シャリング株式會社		

新入學の方々		立教大學水泳部	
(氏名)	(住所)	(出身校)	(種目)
岩田務	"	岐 阜 商	自由形
太田忠勝	"	都 島 工 業	自由形
山本正尊	"	觀音寺商業	背 泳

## 本聯盟役員出征者の通信(其五)



N・S・R機関誌 No. 60 61 62 63「水泳」お恵送下さいまして誠に有難う御座りました。久し振りに懐かしく拜見致しました。

皆様の御奮闘振りを知り心強く感じます。お蔭様にて小生「堅忍持久國是貫徹歸ルト思フナ」長期建設に邁進致して居ります。至つて元氣、身心共に健在です。今夏八月の日、獨・伊水上對抗競技是非見たいものです。

皆様によろしく。

遙か南より皆様の御活躍を祈上げます。さよなら。

南支・飯田、石本、矢野隊

河津憲太郎

内地より送られたる新聞にて自分達の記事を見て今更らの如く任務の重大なるを覺えると共に感慨無量です。悪疫、氣候を物ともせず元氣で働いて居ります。日中炎天下の苦熱も夜半の冷風に忘れ、遠く東京の事ども思ひを驅らせて居ります。紙上にて今年行事を知りました。益々御發展を祈る。さよなら。

南支派遣飯田部隊石本部隊矢野隊

河津憲太郎

拜啓、甚だ申遅れました。

水泳指導状況に付きまして昭和十二年來聖戦の一員に加わり御希望に添へぬので残念です。

然しながら上海戦のクリークに南京戦に水中作業或は渡河に水泳の必要を痛感して居ります。我工兵部隊の架橋漕舟に今少し普及せらるゝならば或は容易に出来る作業も多からうと存じます。漢口の大水も然りです。渡河戦に水上隊に溺死せる姿を見る度常に必ず習ひ、而して健康體育に資することを望みます。尙終身研究の目的の上入會致し度き希望も持つて居ります。草々。

中支派遣軍岡村部隊小林正一部隊奥山隊

岡村勝敏(指協)

應召の節は色々御世話になりました。

三日に何とか入隊し毎月元氣でオイチニオイチニをやつて居ります。何分大分くたびれて居る方なので苦勞です。

兎に角元氣ですから皆様によろしく願ひます。

根來幸成

奉天に續き兄の住地なる天津にも用事あり本月北支へ入りました。万里の長城を眼の前に眺め兵隊さんの守備する列車に乗り感慨に堪へません。

北寧線車中ニテ

松澤一鶴

「まだ死なない、又便りが書ける」と土と兵隊の初ばなにある文句が大變良いものに思えます。近頃東京の新聞に又「花と兵隊」と云ふものが書かれて居ると風を便りに聞いて居りますが、火野軍曹が我々の良き代辯者として戦争の苦しさ、或は又楽しさ悲

慘さを即物的に銃後の諸兄に詳しく傳へて呉れて居る事と思ふ。

で、自分等が折角戦場の便りを書き度いと思つても、から想つて見ると其必要を感じなくなる。と感じても満更自分の筆不精を表明するものではあるまいと安心して御無沙汰をして仕舞ふ。

俺の長い無沙汰にもかゝる因果關係のある事を察して許して呉れ。

先日社長殿及會社より御鄭重な慰問品をいただきました。東京を出てより足掛け三年、十六ヶ月戦争の様な……? 忙しさ、或はほんとの戦争の忙しさに追はれ、支那のにんにくの香りの中で暮して居りましたが、久方振りに東京の香りをかいで突端に歸り度くなりました。故郷を出る時十七・八才の小娘は、今では二十一・二の花盛りとなり二十二・三才のメレチエンは二十五・六のオールド・ミスになつて仕舞つた位の長い月日の兵隊生活でかう思ふのも無理ないと思つていただき度い。

Zuruckkehren は何時だ、後二ヶ月のちだゞの、現役編入になつて後二年は大丈夫だゞの、討伐の話、移動の話等色々な憶測が「土と兵隊」にある様に盛んに行はれ又何の楽しみもない我々はこんな事を憶測する事に依つて最大の悦び或は希望を創造して居ります。十二月末から一月上旬にかけて廣東地方も寒さを感じる天候でありましたが、又暑くなりかけました。二月三月になると百度以上になる想ですが、七・八月頃を想つて今から身振いて居ります。

名物の蚊は一年中ブンブンうなつて居て兵隊にマラリヤを媒介して居ます。

會社の方は如何です。N・S・Rは……

俺も到々二十九の春を戦地で迎へた。

皆様によろしく。

南支派遣久納部隊

二十一日(三月) 馬淵部隊 新庄隊

藤原豊

水上聯盟の皆様。

時々見る新聞でシーズンになつた事を知りました。此様な所に來て居りますと衣がえもなければ、毎日々々鐵砲と劍をいぢつて泣かずに居ります。生活は單調で、少ないながらも、古兵とやらが、數名居り口やかましくのゝしられ全く人間扱されません。藤原兄の手紙を思ひ出します。好く考へて下さい全く同じです。小生は、幹候とやらはやめました。中隊長、教官から大分叱られましたが、私の言ふ事を諒とされ、無事放免。

私達の中隊は全部補充兵、極く呑んぶり營庭の草引きでも演習でも、やるでもなしやらないでもなしです。最近、教練でひぢをついてウヂ虫の様に匍ふ事を教はり匍されて居ります。聯盟の皆様宜敷くさよなら。

根來幸成

# 水上競技聯盟日誌

4月 1日	學生選手合同練習打合會 小學校委員會	幸 樂 事務所		學聯水球委員會	事務所
3日	女子合同練習記錄會(最終日) 府立第六高女プール		9日	三大學對抗打合會	事務所
5日	標準泳法委員會	事務所	10日	學聯水球競技委員會	事務所
6日	水球競技委員會	事務所	12日	飛込競技委員會	事務所
7日	常務理事會兼清水氏入營歡送會 小學校委員會	川甚 事務所	13日	小學校委員會	事務所
8日	編輯委員會	事務所		學聯水球常任委員會	事務所
10日	學聯水球委員會	事務所	15日	小學校委員會	事務所
12日	常務理事會	事務所	16日	明治神宮外苑管理署トノ打合會	幸樂 事務所
14日	小學校委員會	事務所	17日	常務理事會	事務所
17日	標準泳法委員會	事務所		學聯水球競技委員會	朝日新聞社
18日	小學校委員會	事務所	18日	水泳第64號發行	
19日	女子部委員會	事務所		小學校常務理事會	事務所
20日	男子競泳合同練習記錄會 帝大室内プール		19日	三大學對抗打合會	事務所
	小學校委員會	事務所	20日	關東學生水球リーグ戦始ル	神宮プール
22日	小學校委員會	事務所	21日	水球リーグ戦	神宮プール
28日	標準泳法委員會	事務所	26日	實行委員會	事務所
30日	日本學聯代表委員會	事務所	27日	オリンピック対策理事會	事務所
5月 4日	常務理事會	事務所		水球リーグ戦	神宮プール
5日	競泳池公認委員會	事務所	28日	神宮プール開キ	神宮プール
			29日	指導普及委員會	事務所
			30日	競泳池公認委員會	事務所

## 水上競技聯盟議事録

- 評議員會 2月8日 於 幸樂
1. 清水氏ヨリ Kiphuth 氏トノ電話ノ件説明。
  2. 田畑氏ヨリ布哇遠征ノ説明(斷ル事ニ決定)  
早・慶・立・反對、四、五人國際大會ヘノ選手派遣ハ不要。  
◎Hawaii A. A. U.  
Season ノ關係デ時季惡シ。六月始ニ早慶對抗、三大學對抗戦等アリ。選手ノ練習ニ差支ヘテ具合惡イ故御斷リスル。  
◎日布時事ヘモ同様返事ノコト。
  3. N. S. R. ノ評議員會ハ縦ノ關係デ行フコトヲ旨トス。即チ會長ノ指命ニヨリソノ會合ノ性質ニヨリ集合。
  4. 横ノ關係ノ評議員會ハ年2回位開ク事。
  5. 流派家元ハ名譽顧問トス。
  6. 末弘會長ノスポーツマント、宮本武藏ノ話。
  7. 體協ノ Olympic ニ對スル金拾貳萬圓アル故水泳競泳 Diving ト2名ハ行ク事ニスルコト。
  8. Sports ト武士道ノ關係(末弘會長)  
常務理事會 4月12日 於 事務所
  1. 本年度競技日程決定ノ件。(表紙裏ノ通り)
  2. 男子百米自由形クラス標準時間1分4秒ヲ1分3秒4Cc クラス變更。  
常務理事會 5月4日 於 事務所
  1. 本聯盟推薦體育協會役員ヲ左ノ如ク定ム。  
常議員 末弘嚴太郎、松澤 一鶴

參與員 石本巳四雄、本田 存

2. オリンピック委員会ニ出席豫定ノ永井松三氏ニ水上競技聯盟ノ希望條件ヲ左ノ如ク依頼スルコトトス
  - A. 水溫ノ件 (競技用・練習場共保温ノコト)
  - B. 氣溫ノ件 (衣服ノ用意ノ爲メニモ)
  - C. 水質ノ件
 右三件ヲクリンゲベルグ氏ニモ手紙出スコト。
3. 新西蘭水上競技聯盟ヨリ今回汎太平洋水泳聯盟ヲ組織シ太平洋沿岸ノ諸國ヲ糾合シ明年一月六日ヨリ二十日迄ノ間同競技會ヲ開催日本ヨリ同會議代表及ビ選手ヲ招聘スル旨申出ガアツタガ本聯盟ニ於テハ趣旨ハ賛成ナルモ明年ハオリンピック直前デアリ、シーズン外ノ爲メ代表、及ビ選手ハ派遣出來ナイノデ其ノ旨新西蘭ヘ申送ルコト。
4. バターフライ泳法ノ件ハ本聯盟並ニ加盟團體主催及ビ公認ノ中等學校競技會及小學校競技會ニ於テモ之ヲ禁止スル。

常務理事會 5月17日 於事務所

1. 團體長距離競泳ノ件ニツキ静岡縣廳及ビ熱海市トノ接衝ノ結果ヲ報告 (野田主事)
2. 山梨水泳聯盟加盟ノ件承認。
3. プール公認
 

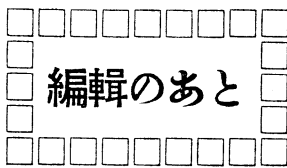
廣島第二中學校プール	再公認
甲子園室内プール	再公認
愛媛縣大洲中學プール (25)	第95號
4. 指導者推薦ノ件  
原則トシテ今回推薦サレタモノハパスサセルコト。
5. 神宮外苑プール開キノ次第決定ノ件。

以上

緊急理事會 5月27日 於事務所

1. 神宮大會期日 9月23日 24日兩日  
又ハ 22日・23日・24日間
2. オリンピックハ參加方針  
昨26日體協ノ常議員會ノ報告。

以上



○戦ひの庭に先輩を送りそして友を送る事變も此所に昭和十四年の夏を迎へたと同時に俺達の夏が再び訪れて來たのだ、水シブキを身に浴びて強く躍動の季節、我々の夏だと大聲に叫び度い衝動で一杯。かうした元氣一杯さで然も我々の希望は一途ヘルシンキへ。

○我等のシーズントップ然も我國水上競技界の最高峯を行く早・慶・水上對抗競技と日大・立教・明大の三大學對抗水上競技も終へ、其結果の批判を競泳の齋藤巍洋氏、及東京帝國大學水泳部の諸氏、一方亦飛込競技に在つて原秀夫氏が其忌憚無き抱負をば本誌を通じて披瀝された。

○先頃京都水上競技聯盟の名譽主事安養寺顯三氏の死去の報に接し有爲な彼で在つた丈に亦我々水泳人の淋しさも一入である故人に對する在りし日の友、白山源三郎氏の追悼文は其生前に於ける顯三氏を遺憾なく髣髴せしめると同時に、我々は安養寺氏の上に冥福を祈らう。

○本號の特輯論說として静岡游泳協會の齋藤亨氏が、我水上競技聯盟の根本方針である、國民皆泳の一端の表はれとして、昨年度行つた熱海、初島間の第一回長距離團體競泳に於ける其醫事結果報告は細部に亘つて親しく本誌の爲に寄稿された、我々水泳人に非常に得る處多大なる事は勿論、と同時に紙上に於て謝意を表す次第。

○水球の笹島彦次郎氏の水球ボールに對する代用品説、及日本學聯の小山賢之助氏が海外情報の一端を共に我々の前に親しく提供された事を謝す。  
(松浦 武雄)

日本水上競技聯盟機關雜誌

水 泳

第 6 5 號

昭和十四年 六月二十日 納本  
昭和十四年 七月 一日 發行

(日本水上競技聯盟代表)  
編輯兼發行人 宍 道 洋 一

印刷所 大日本印刷株式會社  
牛込區市谷加賀町一の十二

定價30錢 年8回發行豫定・8回分 ¥2.40

豫約申込者に限り頒布す (1年前金豫約は送料不要)

廣告料 10圓乃至35圓 御申込次第詳細回答

發行並 東京市麴町區丸ビル581  
申 込 所 日本水上競技聯盟編輯事務所  
振替口座東京三九九一九番